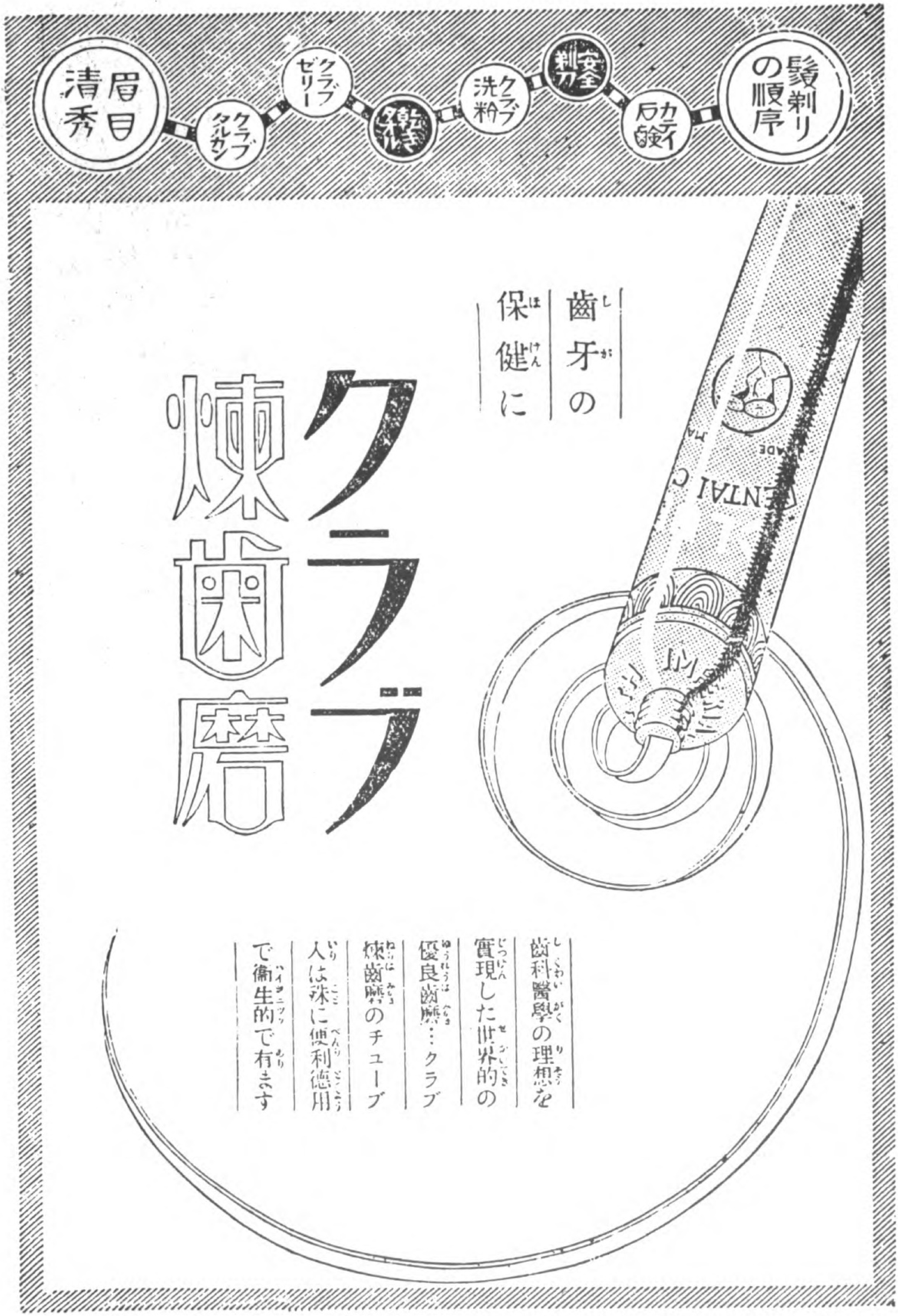
職業婦人



七月號

大正十二年六月七日 第三種郵便物認可
大正十二年七月十二日印刷納本 大正十二年七月十五日發行

職業婦人社發行



髮剃りの順序
カテイ石鹸
安全剃刀
クラブ洗粉
クラブゼリー
クラブタルカン
眉目清秀
齒牙の保健に
クラブ煉歯磨
齒科醫學の理想を實現した世界的の優良齒磨…クラブ煉齒磨のチューブ入は殊に便利德用で衛生的で有ます

社會は、進轉する。外には、國際教育會議開かれつゝ、内には、人類愛、眞理愛、人道愛の新精神漲る。教育も將にこゝに一大旋廻を來たさんとしてゐる……新道德の樹立……新社會の實現……新生活の高潮……新教育運動と現行國定教科書！ それは如何に見、如何に料理して、純眞純雅の兒童に消化させ吸收せしむべきか。

教育、思想、文明批評、社會改造、宗教家、婦人、勞働、實際家、全府縣師範學校長、主事等

批判總合新見解

現行國定教科書批判解剖

教科書批判改造を兼ねて新教育の新着眼新精神現る

◇菊判百五十餘頁【定價七拾錢】（送料二錢） 至急！

◇申込 東京西大久保五一九（振替東京四八九五五） 日本教員組合 啓明會

新刊 文化運動 七月特輯

◇人道觀の上から、社會觀の上から、宗教政治觀の立場から、あるひは人に依り、周圍に依り妙味横溢、深く味ふべき現代數百名の一流名士悉く根本意見を現はさる。

◇本誌によつて、あるひは議論もあらう、あるひは新意見も出よう。急所をつかれ、欠陷短所を遺憾なく曝け出されたものもある。長所善點を充分に認定賞揚されたものもある。

◇本書が親しく萬人の手に亘らば、更に新しく湧いた新所見、新所感をも廣く徵して見たいと思ふ。可憐の兒童のために必ず御一讀を乞ふ。

前金不要 豫約大募集！

教育名著選集

教育史上不朽の

教育史上に燦然たる光を放つ不朽の名著、人間の眞の發達に就て、泰西の大教育家たちが書き遺した寶玉の如き傑作、それが極めて安價にわれ〳〵の書齋に飾らるゝ事は、實に我學界の誇ではあるまいか。われ等はこれらの名著が完全な邦譯となつて現はれ出る事に永きあこがれをもつてゐたが、今やあこがれは强き力となつてわれ等自らその刊行を企つるの機會に到達した。今日流行の幾多教育上の新思潮も、ほとんどその總てがこれらの名著に出發してゐる。われ等はこれらの古典を深く堀り返してみる事によつて眞の教育に寄與する强き力をつかみうると確信する。總ての學校を初めとし、教育を思ふ、あらゆる人々に敢てこの選集をおすゝめする。

第一輯〔古典の部〕

【1】プラトーン
【2】コメニウス
【3】ペスタロッチ
【4】ロック
【5】【6】ルッソー
【7】フレーベル
【8】カント

共和國
大教授法
リーンハルトとゲルトルート
教育に關して
エミール
人の教育
教育論

佐武林藏譯
澁谷義夫譯
赤井米吉譯
野口援太郎譯
前田不二三譯
大關增次郎譯

名著新装して愈出づ！

【9】ヘルバルト　**普遍的教育學**　後藤俊瑞譯

【10】スペンサー　**教育學**　赤井米吉譯

◇第一巻　本年九月發刊，漸次月一回發行

第二輯〔近代の部〕續刊

〔1〕エレン・ケー『兒童の世紀』　〔2〕マロー『まだ見ぬ親』

〔3〕アミーチス『クオーレ』　〔4〕モンテスソリ『自由教育論』

〔5〕ケルシエンシユタイネル『市民の教育』　〔6〕ジユイー『學校と社會』

〔7〕ストーナー『わが子の教育』　〔8〕ウエルズ『ピエルとヂャン』

〔7〕トマス・アーノルド『トム・ブラウンスクールデース』

〔10〕ジョン・アダムス　最近教育改造實際案總評

注文規　第一輯　全十冊　四六判布製各巻約五百頁　通巻五千頁（各册平均約貳圓五十錢通巻貳拾五圓。）

〔一〕非賣品――豫約會員のみに頒つ。〔二〕申込金貳圓（但、全十巻の郵送料に充つ。）

〔三〕拂込　毎月拂金貳圓五十錢（配本と引換拂込）〔四〕一時拂十巻分金貳拾四圓

申込期日　七月三十日　**申込所**　直接發行所宛申込のこと

發行　東京西巣鴨宮仲二四〇一　電話小石川六五三〇番　**教育の世紀社**

◇特典『文化運動』購讀者に限り申込金を免除する。

『教育の世紀社』規【一】目的　眞の教育――何ものにも囚はれず、人間の正しい生長をのみ生命とする教育を、全人類の上に行きわたらせたい。そのために必要な一切の研究と實行とを期する。【二】事業（一）世界のあらゆる國において行はれる新しい教育方法を調査し、研究し、發表する。そのために雜誌「教育の世紀」その他を刊行する。（二）教育に關する人類努力の成果を調査し、發表する。そのために「教育名著選集」その他を刊行する。（三）われ等の信條に基き、教育方法の實際的研究を行ふ。そのために理想の學校「兒童の村」を經營する。【三】同人及社友「教育の世紀社」の事業は、われ等が全力を擧げて創め、全力をつくしてもりたてゝ行かうとする教育運動である。現在の同人及社友左の如し。

〔同人〕野口援太郎　下中彌三郎　爲藤五郎　志垣寛

〔社友〕三浦藤作　小原國芳　赤井米吉　原田實



早稲田大學講師 本間久雄氏著

婦人問題十講

四六判函入
四百廿頁
總洋布裝

定價金二圓八十錢
送料金十二錢

婦人の立場を眞に自覺しやうとせらるる人々に是非本書の一讀をお薦めする

本書は婦人問題研究の權威たる著者が、ケイ、エリス、カアペンタア、ルカその他泰西諸名家の學說と主張とを涉獵して婦人問題の世界的傾向と歸趨と、並びに我國の現狀とを懇切明快に講述せられたものであります。何人も一讀この問題の大勢に通じ、その歸着する所を知るでありませう。

(內容目次)

(1) 婦人運動の由來と意義
(2) 新性的道德
(3) 自由離婚の是非
(4) 結婚の進化
(5) 戀愛觀の變遷
(6) 近代の結婚改造案
(7) 婦人と職業問題
(8) 婦人參政權運動
(9) 新マルサス主義と產兒調節
(10) 我國婦人思想の發達

東京神田表神保町　株式會社　東京堂書店　振替東京二七〇番

固い結束

新聞で見ると、外務省ではこれまでの婦人タイピストをすつかり止して、男子タイピストに代へると言ふその理由は、婦人タイピストは結婚その他の理由で、出入りがヒンパンで困るからといふにある。そこで、これを解すると、婦人タイピストがこの「得意」を維持するためには、結婚を延ばし、姙娠をコントロールしなければならぬことになる。云ひかへると、一個の『女』であることをよさなければ、婦人タイピストは、その職業的地位を保つことは出來ぬのである。今日の社會が職業婦人から母性を奪はんとしてゐることは、この一つの事實にも明白に示されてゐる。

この母性の奪掠にたいしては、職業婦人自身が防衛せねばならぬ。しかしてこの防衛の武器が、固い組合的結束より外にないことは言ふをまたない。





婦人と職業

金子茂子

一

職業婦人の問題は、それを今後世の中で增やすべきか減らすべきか、更に進んでは、婦人の生活よりこれを消滅させるべきか否かゞ根本の問題ではないかと私は考へてゐる。

いくら現在我國に四百萬に近い職業婦人があり、その數が激增しつゝあるとしても、單にそれ等の現象を見て、その前途が發展しつゝあるものと片づけて了ふ事は出來ないのである。

職業婦人を分けると、未婚のそれと已婚の二になる。先づ試みに未婚の職業婦人の正直な心の底を聞いてみるが好い。彼女等の大半は第一に「家の生計の爲に」と答へるであらう。更に僞りなくば婚資を得る爲にと打明けるだらう。多少の收入を家に致しうる爲に、彼女等は家庭にのみあつて家事を手傳ふ娘達より家族の一員としての權利はやゝ強く認められもするし、狹苦しい家庭生活から一日の幾時間かを、ある意味で自由に兩性に接しうる社會生活の中に逃れ得るであらうし、時には己が力で得る賃銀によつて好める衣を例へ一枚でも買ふ事に滿足を覺える者もあるだらう。もちろん苦惱の訴えはその何倍であらうとも。

さてこれらの人々が一度結婚といふ機會に依て、生活の保證が得られるや否や大部分は職業を退いて家庭勞働に入つて行くのが、現在動かすべからざる大きな事實なのである。食べる爲めに働いてゐたのだから食べられさへすれば働く事は入らない譯だといふに何の不思議もない筈なのである。

巳婚婦人の場合にも職業に就く理由に二つある。生活苦の爲に敢てする共稼ぎと、働かずにはゐられない心の欲求から本質的の仕事を求める人と。然もこの人々は少し生計が樂になれば引込むとか、家庭勞働とかけ持ちの重荷にたへず長續きしないとかで、何れの場合にも男子の樣にその職業をやりぬくといふ者はまれである。一つの道で成功した婦人は、今までの所では一般の婦人としての生活には惠まれない、獨身者、未亡人などに多いといふ事になつてゐる。

「男子によりかゝつてゐては食べてゆかれない」その爲に四百萬人の女が社會に出て働いてゐるといふのであつて見れば、その數及びその增加の勢はある强味を感じさせはするだらう。然し若し現下の社會生活における經濟的壓迫がたつた今除かれるとしたならば、この四百萬人の内果して何割が、猶職業婦人としてその立場に踏止まるであらう。

然しながら全てが家庭へ歸るのであれば問題はないのであるが、私たちはこの時に尙踏止まる婦人達のある事を知る事が出來る。爲に、それがいかに少數であらうとも、「男子にたべさせてもらへても働きたい」といふその婦人達の叫びを究めねばならぬ樣に思ふのである。卽ち將來の社會において婦人が家庭に入るべきか、社會に出づるべきかの問題に辿りつくのである。

二

「女性の本性は妻たり母たる事にあるので、その性の差に基づく分野においてその特質を發揮する事こそ女性自身のみならず人類に取つて望ましい事なのである。この時、家庭に集中される婦人の活動は形においては在來の婦人に似てゐるが、實は婦人

が男子に隷屬するのではなくて、正しく一個の人間として取扱はれるのだ」婦人を家庭に歸さうとする人々はかう說くのである。性の差別點に立脚して、再び逢ふ事なき二つの線を描かうとするのが、この分業說であつて、經濟的獨立を說かず、「事務や職業生活を送る事はその天性を束縛し、不具となすものであり、何を苦しんでかゝる甲冑をまとふ要が、正則な婦人にありえやうか」といふのである。

また婦人を社會に出さうとする人々は「性の區別による本務は兩性何れにも認められるが、その他においては全く性の區別を撤廢した共通なものでなくてはならない。即ち婦人の職業の分野は全く無限であらねばならぬもので、社會が婦人に對してその社會生活を拘束するまでに女の義務を負はせる事は不當である」と叫んでゐる。性の差異による生活の別を最少限に止めて他の全てを共通とすべきであると論ずるのである。

この二つの流れの何れにさほさすかといふ事が、職業婦人の根本問題の解決になるのではないかと私は考へてゐる。そしてこれはエレンケイのいつてゐる通り今日新しい研究問題であつて、未だ決定されるべきものではないかも知れない。

三

婦人の勞働の主なるものを家庭勞働とし、餘を職業勞働とみる見方は現在非常に多い。それと共に今日家庭勞働に從事する婦人は職業婦人の何倍に當るか一寸見當がつかないが、職業婦人も未來及び現在の家庭勞働を併せつとめるのであるからおびたゞしい數である。

さてそれなら家庭勞働とは如何なものかと考へると、今日主として敎へられるのは、出產、育兒、敎育、消費經濟、その他の家内勞働を指すものゝ樣である。所で不完全な今日の社會狀態においてさへ育兒のある部分と、敎育の大半は已にくゝ母の手から社會に移されて居、これに對して不平を稱へる者はない。經濟狀態さへ今少し緩和されるなら歐米のそれと等しく各家

庭の中に文化的施設は入り込み、家內勞働の時間は驚く程短縮される事も餘りに明らかな事である。消費經濟、それも現在の我國の法律では婦人が一ヶの完全な人間としての人格を認められてゐない以上、極端にいへば御惣菜の菜つ葉一把買ふにも自由はないともいへるのである。餘す所はたゞ產む事のみ。產む爲の婦人――これが正しく現在の日本の家庭婦人なのである。この婦人の生活を果して男子の社會的生活と比べて平等であるとされるだらうか。

「男女を對立せしめる時に平等とか不平等とかいひ得るのであつて、夫婦といふ男女一對を人間生活の一單位と見なす時、分業は何の支障をも來さない」といふ人々がある。この說に從へば「男子は食ふ爲に外で働き、女は產み育て家を營む爲に內にある。その仕事に輕重はない。少し內を治めて餘力があれば女もまた外に出て仕事をするのもよいが、その場合の仕事は食べる爲のものではなくこの世の中をよりよく美しくする仕事、藝術とか社交とかの方面に進むべきである」といふのである。

かく夫婦を一つのユニットと見る時には、內助の功をあげる妻こそ理想的のものであり、次の時代の創造の任を委せられる婦人の地位こそは低い所か遙かに尊く高いものかも知れない。「婦人の主なる勞働である家庭勞働が他の勞働の如く經濟的價値を有しない事が婦人の地位を低めてゐる原因である。妻及び母の仕事の俸給を支拂はれる事によつて、女は經濟的獨立をなすべきである」こんな說をもつ人々も少くない。婦人に理解ある說としてもてはやされてゐる傾向さへあると思はれる。

けれどもこれも如何なものであらうか。もしもその報酬が夫より拂はれるとするなら、これが女中、家政婦、家庭敎師、保姆等の仕事に加へるにその雇主たる男子への性的服從を贖ふ代償として與へられる物に他ならぬといへないだらうか。妻君業といふ新職業が生れる事にならないだらうか。

私は正しき戀愛による結婚生活においては、かゝる職業の成立はありえず、從つてかゝる勞銀の得方はありえる筈がない事を信じるものである。妻として母としての生活がかく物質的に換算される時、仕事の質は一變する。

私はどうしても家庭といふものに對する考へ方が一定しない爲にこんな問題が起つて來る樣に思ふ。

男女が共同で營むべき家庭生活においてその責任は連帶である。母たり妻たる者の仕事のみおびたゞしくなつて、父たり、夫たる生活の正體はこれで判然とえがき出されないで濟むといふ樣な現在の家庭生活は全くゆがめられたる物、破壞されねばならぬものである。この意味から私は家庭勞働は男子にもあるものであり、家庭勞働と職業勞働は全然區別さるべきものであつて、何人も家庭を營む以上家庭勞働は男女共同にこれにあたると共に、男子の職業勞働と共に婦人もまた社會的な職業の野に放たれなければならぬと信ずるものである。

もつとも婦人の生產哺育の仕事は相當の時日を要する事で、社會的職業を取る時に妨げとなるといふ說がかなり分業說の有力なものである。卽ち生殖といふ仕事の上で婦人の方が男子より過重な荷を負ふ爲に、どうしても職業の分野に差を生じるだらうとする意見なのである。

もちろん現在の社會においては、異性を性の職能のみに依つて吸引しやうとする仕事以外では、婦人の職業と結婚生活は決して兩立しない。母たり妻たる事と、職業をもつ事とは二道をかける事の不可能さを餘りに多く見せつけられ過ぎてゐる。けれどもこの事實を永久不變のものとして、職業婦人を嫁入支度や、ある不具者的な婦人の避難所として片づける事を正しいと見る事は今の私たちにはもう出來ない事である。

「働かざる者は食ふべからず」これは男女の別なく萬人にあてはまらねばならぬ言葉と私は信じる。かくして立て直されたる家庭生活より、婦人は社會に送り出だされ男子と共に協同のよき社會を作る時、食ふ爲に働く重荷を輕められた男子は從來顧みる暇のなかつた家庭に歸つて來る事が出來るのではなからうか。外國における母性保護の運動は漸く婦人の爲といふ立場からよりも子供の爲により多く叫ばれる傾向を示して來たさうだが、如上の問題も、私は子供の立場より大に叫ばれねばならぬと思ふ者である。「家庭に母を歸せ」のその叫びに「父をも歸せ」と叫ぶ事を忘れては家庭生活は尙不平等なものである。完全な人間としての父と母を有する家庭に改造する事は子供の立場より叫ばれて然るべき事であつて、婦人が誤まられたる母性

愛に祭りこまれる時、子供は母の專有の玩具となり易く、女もまた社會的に仕事を持つ一個の獨立した人格としてある時に、從來の如く自己の平和の破れるのをおそれる利己的な婦人では、ありえない事を私は心から信じる。「人間になる爲には仕事をもたねばならぬ」これが私の考へてゐる事なのである。この時私達は職業に對する觀念も今日より餘程變つたものでなくてはならぬと思ふ。

私は男が女になれるとも、女が男になれるとも思つてゐる者ではない。然し初めから性別による分野を決定してかゝらねばならぬ理由を今の所私は認められないのである。生殖において平等といはれない人間だから、人類の仕事の量に差は生じるだらうがこの差をもつて分業とする事は出來ない。性別による差よりも各人の自由を許す事が根本的に大切な事なのであつて、結果としては婦人に擇ばれぬものが出來ても、それは擇ばない丈であつて、これを土臺にして擇んでならぬと決める時には己に正しくないのである。やりたいと思ふ事を擇び得る自由の下にあつてこそ、人間は樂しく働き人生によき物を產み、献げられるものであらう。

四

職業婦人の問題はこんな風に婦人問題全班にわたつて深い關係を有つてゐると私には考へられ、更に子供の問題にも大切な關係をもつてゐる樣に思はれる。然も今日社會改造の第一戰線に立つ人々の間にも、この根本的な婦人問題に對する見解は區々でありながら、同一戰線にたつ事を主張される人々が多い。私は自分達婦人の自己解放運動が今日のプロレタリア運動と協同戰線をしくべきである事を當然と思ふと同時に、未來の新社會の建設に對しては婦人側からもプログラムが揭出されるのでなければならず、我々は今この研究を怠るべきではない事を痛切に感じさせられてゐる次第である。

時評

婦人界一瞥

山川菊榮

職業と母性

I・W・Wの大親分で今は勞農ロシアに亡命してゐるヘイウッドが、曾て横濱や門司に寄港した時の印象を語つた中に、

『是等の港では男子でも苦痛とするような激しい屋外の勞働に、土工の妻や幼兒を負ふた母親が汗水流して從事してゐる。日本の無產階級の男子は、自分らの妻や母がその目前でかうまで虐使されるのを何と見てゐるのだらう？ おまけに是等の男子は、日中自分らと同じ過激な勞働に服した妻や母に、家に歸つては更に自分らのために食事の世話をさせ、ふき掃除から、ベッドの用意までさせ、子供らの面倒も見させた擧句、氣に入らぬ時は打つたり蹴つたりするといふ。コムミユニストは斷じてかくの如き狀態を看過しておくことは出來ぬ。婦人の現狀に同情せぬのみか、却てその不利な境遇を利用してこれを虐げる男子は、資本家階級と同じく、コムミユニストの敵である』と云つたといふことを聞いた。

『ブルジョア參政權論者は、女子船渠人夫が男子人夫と同じ重量の重荷を擔ぐと聞いて歡喜したが、同じ事實は、コムミユニストをして、さういふ不健康の勞働を婦人に強要する狀態に對して戰はねばならぬといふ――または少くとも母としての勞働婦人の健康を保護するために勞働狀態を改善せねばならぬといふ決心を固めさせた』と第三インターナショナル婦人部は報じてゐる。

母性は種族保存のために、特に婦人のみが負はねばならぬ自然の重荷である。此點において自然そのものは男女の間に不平等な義務を課してゐる。けれども、此自然の不平等――生理的區別に基く自然的分業――は婦人の甘んじて受容れる所であり、喜んでぎせいを拂ふ所以である。所が資本主義の社會は、此自然的不平等の上に更に幾多の社會的不平等を加へて婦人の地位を堪へ難いものにした。今日の世の中では婦人は母性の爲に尊重される代りに却つて壓迫されて居る。母性尊重の名において教育は拒まれ、多くの有利な職業への門

戸は鎖され、市民權は認められず、勞働力は男子の半額にしか買取られない。婦人が勞働市場で男子と競爭する時、いつもそのハンデキャップとなるものは母性である。そこで母性廻避、母性抑壓の傾向が自然に勞働婦人の間に芽を出して來る。自發的に母性を抑壓するもの――即ち産兒制限を行ふ者も、强制的にそれを外部から抑壓されるもの、即ち墮胎や子殺しを犯す者も、ひつきようは同じ類ひである。

　婦人が不生産的な家庭の勞役から放たれて、生産的勞働に寄與することが、その解放の重要な條件であることは、もちろんコムミユニストの認める所である。けれどもコムミユニストはいつも種族的見地からのみ見ることを忘れない。婦人は單に男子と同じ資格をもつ勞働者となるだけでは、その特殊の自然的及び社會的職分を盡したものといふことは出來ない。婦人をして種族の母としての重大な義務を全うさせることによりてのみ始めてその解放は完成される。かくて『母權の擁護』はコムミユニストの婦人解放の運動の最も重な旗じるしとなるに至つた。

　母性と職業生活との調和し難いむじゆんをどう解決するかこれは日本では依然として大體において婦人が職業生活と經濟的獨立とを母性のためにぎせいにすることによりて解決されて居る。けれども年々增大する生活の不安につれて職業婦人の就業期間も延長され、妻及び母にして賃銀勞働に從事することを餘儀なくされる者が殖えて來る。大阪府下の調査によれば曾ては女子工場勞働者の平均就業期間が二年位であつたものが、今では七年平均に達してゐる。少年工の最低年齡の引上げと共に此就業期間の延長は、女子の間に、一時的な小遣錢稼ぎでない、多少永久的な熟練工を作つて行くに相異ない。そこで母性と職業との關係は今後益々重大さを加へて行くに相異ない。

　此問題を解決する爲にはしきりに婦人の内職奬勵の聲が聞かれる。然し多くは不熟練な技術しかもたぬ婦人が、家事の片手間の内職は比較的割のよい場合でさへ小遣錢より以上の收入を擧げることは困難であり、殊に大抵の内職は二重三重の請負制度により、無制限の競爭によつて恐るべき搾取が行はれ、内職者の團結によつてこれに對抗することがほとんど不可能である以上、これは決して永久的一般的に推奬の出來る仕事でない。のみならず、母親の内職は自然に幼兒の哺育をおろそかにさせ、やゝ年長の子供には幼年勞働の搾取に服

することを餘儀なくせるといふ弊害を伴ふ。

そこで職業的地位の向上と共に産前産後の手當つき公休の要求は、各種職業婦人に共通の最も痛切な問題でなければならぬ。臨月の腹を抱へたり、赤兒を負ふたりして過激な屋外勞働に從事する土工の妻や、工場や事務所で働く他の總ての職業婦人の姿を代表してゐるものである。昨今芽を出しかけた職業婦人の運動の如き、その最も手近な目標として男女同給、母性保護等の要求を强調するが當然であらう。何等かの技術に熟達することゝ、結婚後も二重三重の負擔に苦しめられることなしに職業に從事し得るやうに勞働條件を改善すること、此二つは職業婦人解放への第一歩である。

職業婦人と賣淫

娼妓及び私娼として知られた專門的賣笑婦の外に職業婦人または女學生が小遣取りのためにする賣淫の擡頭がひん〳〵として報ぜられる。婦人の失業とその極度に低廉な賃銀とはこの勢を益々助長させずにはおかない。結婚といふ、何等の技術をも資格をも要せぬたゞ一の安全な生活手段を目標としてのみ育てられた婦人が一朝その唯一の生活手段にはぐれた時、性より外に何等の資格も訓練もいらぬ點で結婚業に最も類似する賣淫業に救助を求めることには何の不思議もないけれども、同じ婦人として見れば單に不思議はないではすまされない。彼等の汚辱は婦人全體にかゝはる汚辱であり、彼等の陷つた危險は、無產階級の婦人全體をおびやかしつゝある危險である。こゝにおいてか、婦人の職業的訓練、失業防止及び男女賃銀の同等々の要求は益々切實な問題となつて來る東京市の中央職業紹介所へ職業周旋を依賴した婦人が四五の二ケ月間を通じて二千人に餘つたといふ。全國を通ずれば此何十倍にも達するであらう。失業婦人――職業的に無能で依賴心許り强く育てられた窮迫者たる婦人――の群が必然に遭遇する誘惑と、それに伴ふ無產階級男女の心身の墮落頹廢とは全階級にとつての脅威でなければならぬ。餓死と屈辱的生活との二つに一つを選ぶべく迫られてゐる是等の姉妹は、次の時代を生みかつ育てる無產階級の母である。されば婦人の失業と困窮とは、次の時代にまで影響を及ぼす點において、二重の危險を意味して居る。然も婦人の勞働が正當に評價されぬ限り、この危險を防止することは困難である。婦人が勞働

組合を組織し、男女同賃の原則を支持して、その失業と無制限搾取とに對抗するほかに賣淫の汚辱と危險とを防ぐ實際的な方法はない。

戀愛共産

彼等男子を賣笑婦の誘惑から救ふために、自分の肉體を無償で提供するといふ『戀愛共産』の旗じるしをおし立てた少女團が發見さた。理屈は何とでもつく。此少女らの企てが、單なる放恣な享樂に淺薄な僞善的假面を被せたものであることはたれも見え透いて居る。その目的の何たるを問はず、婦人が戀愛を何等かの他の目的のための手段とすることは、常に戀愛の冒瀆であり、墮落である。異性救濟のために甘んじて凌辱を受けることは、親のために身賣をすると同じ道徳に似た不道徳である。

今日では餘りにも極端に兩性の間が懸絕し、相互に選擇の自由のなさすぎる結果として、その正反對の、極端なる性的放恣、絕對的無制限の狀態を愛に忍がいて自ら慰める者が少くない。けれども異性に對する選擇權の同復は婦人解放の重要な條項の一つである。婦人が全き自由を回復し男子と同等の經濟的獨立をかち得た時、數千年來の文化の發達と共に發達して來た選擇の能力を否定し、その權利をなげうつて全ての異性のほうように甘んずることがあり得やうか。事實はそれに反して、婦人は今日より一層高い標準によつて男子を選擇するに相異ない。そしてその新しい標準の中には、人生の高貴な目的のために、社會全體と子孫のために、個人としての欲望を抑へるだけの自制力の多少も必ず加はるに相異ない。ブルジョアジーの支配の下に不自然な、極端な禁欲生活を強られる青年の中には、その反動として未來の社會を性欲萬能の社會として忍がきたがるが、婦人が自由を得た曉には、今日のように極端な放恣と極端な禁欲とが並行せぬ代り、婦人の賢い選擇に調節され、男子の間に適度の自制が發達するに相異ない。

性の問題は常に種族的利害の見地から見る必要がある。成ほど戀愛は個人の私事である。けれどもその戀愛によりて生れる子供の優劣や強弱は社會全體の問題である。そこで放恣な性的關係によつて、傳播される性病とそれが二代三代の後にまで及ぼす惡影響を考へる時、各々の個人の一時的滿足の

ために、社會全體及びその子孫をまでぎせいにする行爲が正しいといはれないのは當然のことである。各々の時代の家族制度とそれに伴ふ性道德の中には、常に無意識の中に子孫の保護といふ種族の一大目的が含まれてゐた。けれども在來の性道德は、婦人側の自制のみを健全な子孫を得るゆゐ一の條件として、男子側のそれを意としてなかつた。新しい性道德は社會全體の幸福と、より優良な種類を遺す目的とのために男女相互の間における適度の滿足と、適度の自制とを要求する。此新道德の確立のためには、婦人の經濟的獨立と共にその自尊自重の觀念が最も重要な條件となつて居る。婦人が戀愛を弄び、または何等かの他の目的の手段に提供する時、その人間としての尊厳は損はれ、その自由は冒瀆されるのである。

職業婦人問題講演會

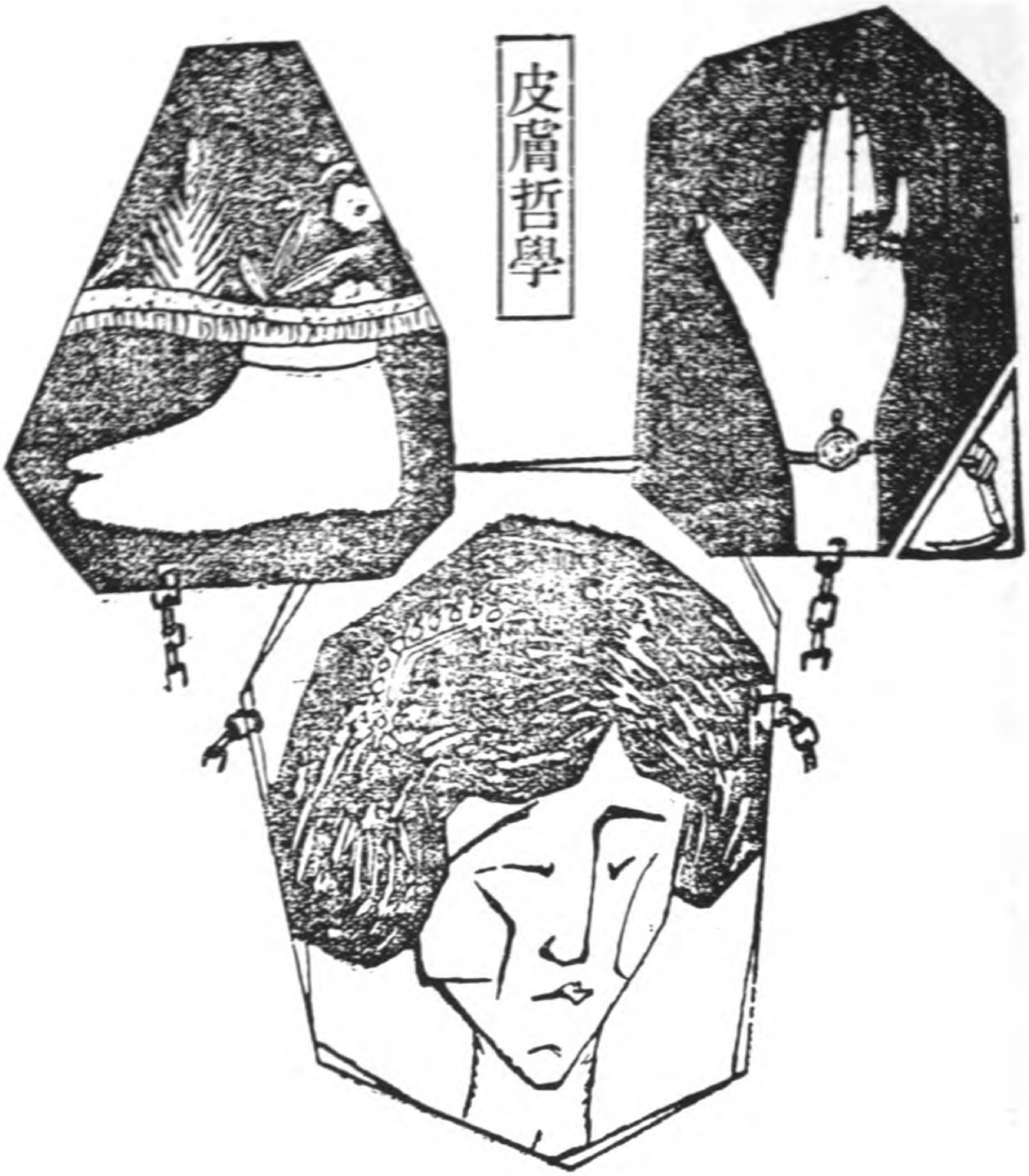
わが職業婦人社主催の第一回の職業婦人問題講演會は六月廿九日の夜神田の青年會館にて催された。講師は左の六名。

産兒制限運動に就いて　石本靜枝氏
職業婦人の問題　沖野岩三郎氏
結婚か職業か　金子茂子氏
女性に語る　秋田雨雀氏
私たちの主張　奥むめお氏
勞農ロシアの婦人の生活　黑田禮二氏

今まで、どんな演説會でも講演會でも、聽衆の大部分はきまつて男子であつたのに、當夜は珍らしくも、熱心な婦人の聽衆がその過半數を含めてゐた。今や職業婦人の問題が、如何に眞劍に、まじめに、婦人自らの問題として考究されてゐるかといふ事が、この一つの事實を見てもよく解る、と、講師の方々と一緒に、益々自重して進まうとうなづき合つた。

たゞ一つ、當日の會場で遺憾に絕えなかつた事は、臨場の警官の態度であつた。職業婦人問題といふ眞面目な、研究的な講演會に三十人四十人といふ大げさな警官の一かたまりが臨場するそれだけの事さえ、常識では考えられぬ曲事なのに演説會としての取扱をするといふので、折角傍聽に來られたにも關らず、丁年に充たないといふ理由で、五六十人の若い人々が青年會館の入口から素氣なく追はれた事であつた。

皮膚哲學



令孃と勞働婦人との相違は服裝よりも容貌よりも先づ皮膚の滑らかさから根本的に知り得る。令孃奥さん方は何々クリームや何々美顔料で皮膚をすべ／＼と感觸よくさせ、それでも足らなくて顔や手や足を絹の覆ひで保護したり貴金屬類で光彩を放たうと努力する。それがためには勞働は禁物、從つて男の奴隷となつて遊んで浮身を窶さねばならない。そしてまたそのためには恬然として洒蛙々々としてゐなければならない。だから反對に面の皮の方は硬直して「蛙の面に水」といふ現象が起つて來る。



童話

黄金の巨人

伊藤なつ

昔、ある國の大きな都に、高い立派な塔のある見事な御殿がありました。一度この御殿へ行つた者は、たれでも前よりはかしこくなり、また前よりはずつと幸福になると云ふうはさが昔からありました。この御殿の中には、困つてゐる人はたれでも助けてくれる親切な人が住んでゐると云ふのでした。この救主の顔を見た者もなければ、どういふ風にして助けてくれるのか、それについて話の出來る人もなかつたのですが、しかも毎日々々たくさんの人々が、この人に自分の苦しみを訴へて恵をうけようとして、この御殿へ出掛けてゆきました。この都に住んでゐる人達は、御殿の主人公をたゞ『黄金の小父さん』とよんでゐた程、この人は金持であつてまた親切だと云ふのでした。けれども、御殿の中には數限りもない程部屋があるのでこの親切な人をさがすのは容易なことではないのだそうです。とは云へ、救ひを求める人々の群は絶えたことがありませんでした。殊に戰爭があつて澤山の人が死んだり、大饑饉があつたり、種々の悪い病氣が特に貧乏人をおそつた時には、限りもなく願人の數は增してゆくのでした。

ある時、非常な不景氣が都をおそつて來ました。あらゆる努力にもかゝはらず、多くの人々はその日のパンにも事をかくやうになりました。そしてこれらの人々のなげきは『黄金の小父さん』に對する希望となつたのでした。その時、貧しい人々の



群の中でかしこい一人が起つて『皆さん！　私共は私どもの間から、私達の苦しみを話してくれる人、私達を導いてくれる人を一人えらばうではありませんか。その人を、私どもは御殿へ送りませう。そうすればそのえらばれた人が『黄金の小父さん』を探して私どもの皆を救つてくれる樣にたのんでくれるでせう。その人こそ『黄金の小父さん』を補助して、私どもの爲にはかつてくれるでせう。』と申しました。

これを聞いた人々は叫びました『お前は實にかしこい男だお前こそわれ〳〵の使者だ。われ〳〵が早く救はれる樣に、一時も早く御殿へ行つてくれ！』使者は仲間からの尊敬の爲に、すつかり昂奮して御殿へ出掛けました。そして直ぐ『黄金の小父さん』を探しはじめました。長い間彼はあちこちと迷ひました。彼の足音は廣い廊下にひゞきわたりました。そして最後に彼が大きな暗い穴倉に降りて行つた時に、彼は甘酢つぱい匂ひのみち〳〵てゐるこの部屋の中に、たくさんの大きなタルが置いてあるのをみつけました。どのタルにも一つの記號が書いてありました。小さな丸窓を通して流れこむ薄あかりで、使者はやつと「貧乏人の涙」「病人の涙」「ふしあ

はせな人の涙」「家のない人の涙」と云つた樣に、限りもなく續いてゐるタルの列をよんだのでした。一番おしまいに、どのタルよりも大きなのがありました。立派にかざつてはありましたが、大變ほこりだらけになつてゐました。使者は、一番古いものらしいこのタルの銘を、骨を折つてよみました。『キリストの涙』と。涙は神さまのだつたのです。不圖、ある物音が使者の耳にはいつたので、使者はヒヤとして思はず眼をみはりました。すると大きなタルの後に、塔の尖の樣な形をした頭に冠をのせてうづくまつてゐる大男がゐました。大男は寒いのに裸でした。けれども不思議なことには、彼の皮膚は金の樣にかゞやいてゐました。彼が手にしてゐるサカヅキの中には、何か液體がはいつてゐました。これが實に『黃金の小父さん』だつたのです。使者はおもひがけない恰好におどろいて、暫くは言葉も出ませんでした。が遂に彼は氣を取り直して、巨人がそろ〱とその大きな體を起してゐる間に、どもりながら話しはじめました。『偉大なこの御殿の御主人さま、あなた樣の切角の御休息をお妨げした失禮を、どうかお許し下さいまし。苦しみが、私どもにこんな失禮をさせる樣に强ひるのでございます。民衆はあなた樣のお救ひを求めて居ります。私は、あなた樣に民衆を救つて下さる樣にお願ひしやうと思つて參りました。あなた樣は、あらゆる人々を助けてやることがお出來になるのです。』これをきくと巨人は體を起して、使者の小さい體が一層ちゞみあがつて小さくなつた程、大きな、雷の樣な聲で申しました。『私が外の群衆をみた時、彼等は不平を云ひ私をおどかしてゐる樣にみえたが、それは、私の思ひちがひであつたのだらう。けれども私は、お前の望みをかなへてやれるかどうかは明言出來ない、私はまづ第一に、私のかしこい代議士にたづねてみよう。』と。

使者は、代議士と云ふ者のあることを聞いたのはこれが始めてでした。使者はそれについてたづねてみようと思ひましたが巨人は彼について來る樣に使者を招いで、階段を明るい所までのぼつてゆきました。外には、民衆が彼等の使者の歸りを待ちあぐんでゐました。黃金の巨人はチラと、これを小さい窓から見下しました。それから立派なトビラの前で、使者に暫く待つてゐる樣に云ひのこして、自分は廣間の中へとはいつてゆきました。その廣間の中には、使者が未だ想像したこともない程た

くさんの人々がならんでゐました。廣間は高く美くしく、天井は金色にかゞやき、壁にはたくさんの繪がかけてありました。氣持のよいモウセンの上では、足音さへ低く消えてしまひました。トビラは巨人の後に音もなくしまりました。廣間の中の人人は巨人を見ると輕く頭をさげてあひさつをしました。黄金の巨人は高い段の上のぜいたくな椅子の上にすはると、市民の願ごとについて語りました。そして「私がどうしたらよいか、諸君はそれ〴〵意見をのべてくれ給へ！」と最後に申しました。

そこで長い間、人々はあれやこれやと助言を提出しました。ある代議士が「使者は願ふために來たと申しますが、門前の群衆の行爲は明らかなイカクではありませんか。我々は固く守らねばなりません。たとへ、われ〳〵が、われ〳〵よりも多數の者に與へても、すべての人々を救ふことは出來ないでせう。若しもわれ〳〵のタルの中の金がなくなつた時に、外の國民の涙がかれてしまつて、新らしい涙が、われ〳〵のタルに流れ込まなくなつたら、一體どういふことが起るでせう。功勞のある者に與へるべき賞與を、われ〳〵は喜んでとゝのつてゐるではありませんか。萬人を救ふといふことはわれ〳〵の滅亡であります。」と申しますと、この時まで默つてゐた他の一人の、智者が起つて靜かな鼻聲で答へました。「あなたの仰しやる方法はかしこいやり方であるとは思へません。この廣間の中には、あの使者や、彼の仲間の者の爲の席は未だ充分あるではありませんか彼等をこゝへ入れると、彼等が我々の權力を破りはしないだらうかと云ふことに就て私は心配しません。四十人か五十人で權力を分け合ひませう。しかも千人で分けるよりは、はるかに〳〵にましではありませんか。さうすれば、これらの人達が民衆をあきらめさせてくれます。民衆は自分の小屋へ歸つて行つて、もはや門前には立たなくなるでせう。そこで澤山の涙は、われ〳〵のタルの中へ流れこむでせう。われ〳〵はあの五十人の前には快よく門を開いて、五十人の後では門をとりゐるのです。五十人の人々を黄金の酒で醉はせてしまふことは、むづかしいことではありません」と。

この忠告は皆の賛成を得ました。直ぐにトビラの外で待つてゐる使者は招かれました。廣間の中のある席が、彼の席として示されました。

かゝる恩惠をめぐまれてすつかり幸福にさせられてしまつた使者は、門の前へ急いでやつて來ました。民衆は使者の話を聞いて高くよろこびの聲をあげ『黄金の小父さん』の厚意を讃美しました。そして大急ぎで貧乏人の仲間から、五十人の代議士をえらび出して御殿へ送りました。御殿ではそれらの代議士に廣間の左側を席として與へましたので、それから後は、これらの人々を左翼の議員と呼ぶ樣になりました。

△

喜び、全く空しい喜びが民衆を支配しました。たゞ少數の目覺めた人達だけが、この國民をだます計畫に氣がつきました。そして民衆に向つて『これら僅な人々だけにまかしてしまつてはいけません、最もよい援助は、自分自身の力を信じることです。』と申しました。がその努力はむだでした。民衆はあざ笑つてこの忠言をしりぞけました。そして幸せを感じて家へ歸つて來ました。けれども家には、前と同じ樣な灰色の苦しみが待つてゐました。部屋は相變らずじめ〱としてゐるし、着物もパンもありません。病氣はいつもやつてくるし、種々の物は高くなるばかりでした。そして買ふお金と云つては一文もないのです。かう云ふ狀態にあつても、尚民衆は、やがて自分等が救はれると云ふことを確く信じて居りました。そして立派な代議士として、御殿のあの心地よい椅子の上におさまつてゐる人々の仕事の上に、唯一の望みのつないで居りました。それですから一定の期間がすぎますと、人々は御殿へ、出かけてゆきました。もちろん民衆は、約束通りに民衆に幸福のトビラを開いてくれることゝ信じてゐたのです。人々は多くのトビラをみつけましたが、それは昔の樣にかたく閉ざされてゐました。

『私も、私の可愛い子供もねる部屋がないんです！』

『私の妻はもうじきお產をするので、ミルクがぜひ入用なのです。それに私は毛布一枚持つてないんです……』

『何もかも高くて、私にはとても買へません、仕事の口は、一週間も前から一つもありません！』

たれも彼もさういふ風に訴へなげきました。たとへかうした民衆の訴へる聲がきこえてきても、『黄金の小父さん』も彼の代

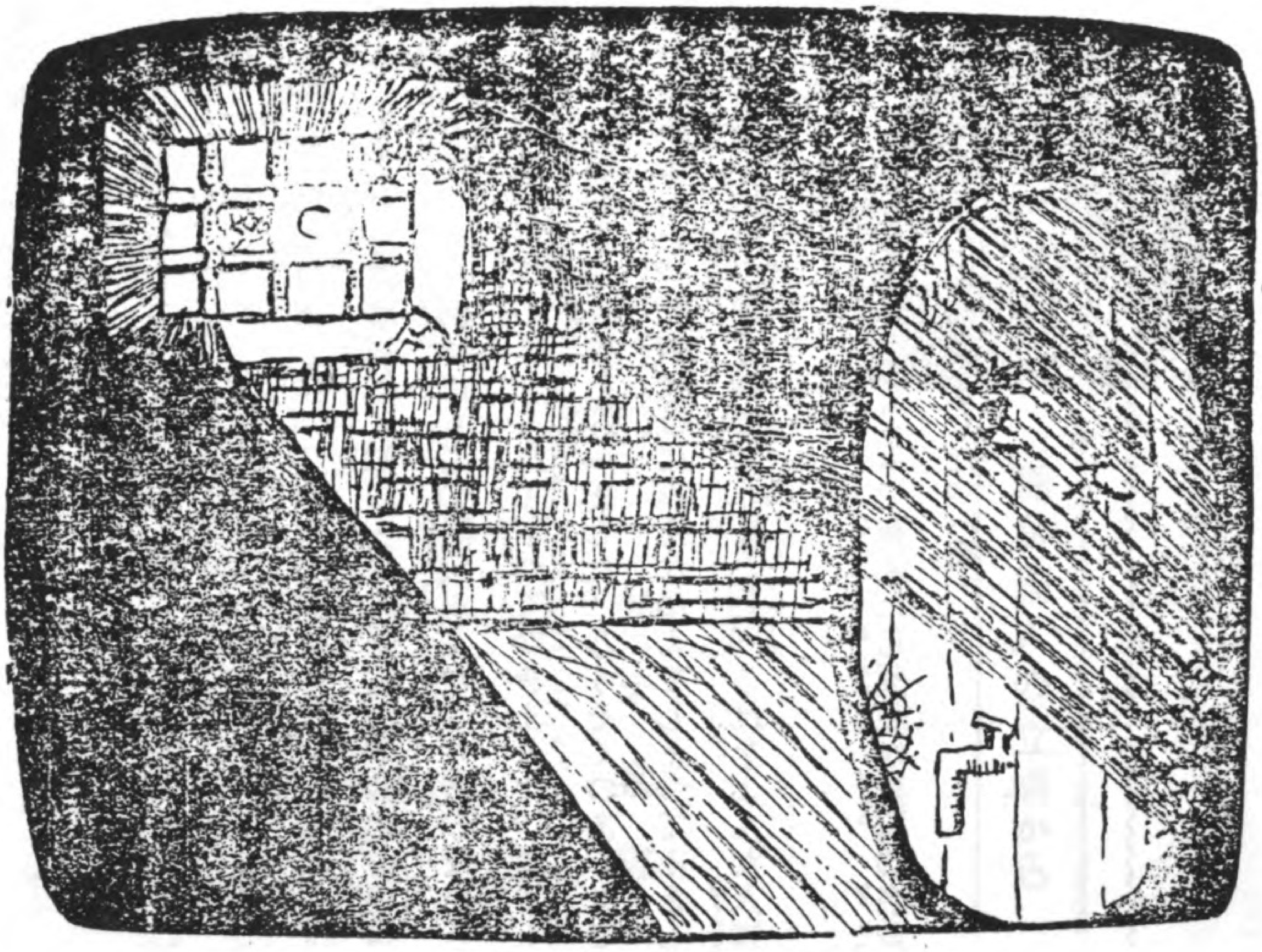
議士も、民衆に救ひとなぐさめを與へ樣として出ては來ませんでした。しばらく經つて、在側の議員が民衆の前に現れて申しました『皆さん！　しづかにしづかに！　我々の仕事も實に容易ではありません。そんなに怒つて、我々の仕事の邪魔をしてはいけません』と。そして議員等のコウカツなお教說が、民衆のキガとあらゆる苦痛の叫び聲を抑へつけてしまひました。民衆は仕方なく家へ歸つて來ました。そして涙の流れは、あふるゝばかりに御殿のタルの中へと流れこみました。かの目覺めたる民衆の眞の利益の爲に働いてゐる少數の先覺者等は、自分自身の困難をかへりみないで、家から家へと民衆に說いてあるきました。『あの人達の權力と云ふものについて、もつとよく考へてごらんなさい。一人や、あるひは五十人位の少い人々だけを信じてまかしてしまふのは、あぶないことです。』と。けれども左翼の議員等も、その仲間の者を民衆の間に步きまはらせて、あの先覺者等の云ふことを信じてはならないことを巧な方法でときゝかせました。またこの先覺者等に對しては、たんていや捕手をさしむけて幾人かをつかまへさせ、塔の暗いところにおしこめてしまひました。そして民衆には『先覺者等のすることが正しくないために、黃金の巨人の見えざる手がこらしめるのです。巨人の怒りは非常なもので、全國民はその下で惱まねばなりません』と申しました。そこで民衆は恐れてしまひました。民衆は先覺者等の云ふことに一切耳を被ひました。貧困は益々つのる一方でした。涙の流れは日々にその量を增し、巨人の倉の中のたくはへは次第に大きくなつてゆきました。

勇氣に富んだ先覺者達の群は、もはや默つてみて居られなくなりました。彼等は起つて黃金の聖者、僞善者を彼の〇〇からつきおとすために集りました。左翼の議員等が、何のために自分は議員になつたのであるかと云ふことを思ひ出して、自分等の仕事をたすけてくれることを期待し、あきらめてゐる民衆が自分等の指導に從つて、自分等を解放するための戰ひに加はるであらうと云ふことを望みながら人々は集りました。そして御殿へおしよせ、とざされた門を力まかせにこじあけました。があゝ何と云ふことでせう！　前以つて意地惡な巨人が掘らせておいた深いおとし穴に、突然落ちこんでしまつたのです。けれども後からつゞいた人々は、目前の犧牲者のために勇氣をくじかれることもなく、倘も外から押し入りました。そこでおとし穴

は忽ち一杯になりました。血みどろになつてうめいてゐる仲間の上をふみ越えて御殿の中へ進入しながら、民衆に向つて、『我等に從がへ！』と叫びました。この時高い塔の上へ、左翼の議員が現はれました。そして民衆に向つて大聲をはりあげて『皆さん！しづかにして我々が何を云ふかきいて下さい。皆さんはもはや、パンがなくてひもじい思ひをすることもありません、着る物がなくてふるへる樣なこともありません、皆さんのたれもが、人間らしく生活をたのしめる樣に、あのいやな貧乏を根絶する樣にわれ〳〵は骨を折りませう。われ〳〵は今度こそ皆さんの前に誓ひませう。われ〳〵は皆さんの味方であり、皆さんの利益をきつとはかると云ふことを。』と申しました。これを聞いた民衆は、彼等の一番大事な目の前の仕事を忘れて喜びました。この議員に對するあつい信頼の念は、見事に先覺者等を裏切つて、民衆を救ふ唯一の方法であるこの先覺者等との共同戰線を打破つてしまつたのです。

△

それから後も先覺者達は、民衆を目覺めさせるために努力しました。あらゆる迫害、追跡なども、彼等の信念を打こはすことは出來ませんでした。左翼の議員さへも、次方に民衆の保護のために、つくす樣になりました。御殿の人々は左翼議員を再び邪道に導いて、黄金派との結合を新らたに、より一層堅固にしやうとしました。けれども左翼の議員は、もはや昔の樣に從順ではありませんでした。彼等は自分等の權利を要求しました。御殿の人々は民衆の權利をさん〴〵にねぎり、そのために、左翼の代議士にいろ〳〵とおせじをつかつてみました。が今度はそれもむだでした。そこで御殿の人々は、黄金をふりまくことによつて、自分等の味方を民衆の中から探し出そうとしました。そして右翼の議員とはかつて、ある時左翼の議員を門の外に投げ出してしまひました。けれどもこんなこと位が、苦しみの鎖より外には失ふべき何物をも持つてゐない多くの民衆にとつて、何のしるしになると云ふのでせう！　先覺者等の集りは次方に數を增し、計畫は進みました。彼等は遂に、時をみて戰ひの旗を高くあげたのです。民衆は再び御殿の前に立ちました。今度は願ふためにでなく戰ふために。戰ひは可成り烈し



く、黄金派の人々はあらゆる手段を以つて抵抗したがむだでした。民衆は巨人を倒すために御殿の奥深くへ進みました。けれどもなかなかみつかりません。人々はさがしつくして、遂にラセン狀の階段を塔の上へのぼつてゆきますと、その一番上にあの巨人が小さくなつてかくれてゐました。彼はあらん限りの力を以つて塔の窓から外へ飛び、塔のてつぺんへよぢのぼりました。失はれた權力の方へ空しく手を伸しながら。
この時、下でこれをみた民衆は聲をそろへて、いかにも憎らしげに『それより上はもうないんだよ!』と叫びました。これを聞いた時、巨人の體中を氷の樣に冷いものが流れました彼の筋肉はこはばつて、彼の體は石になつてしまひました。
この時以來、塔の上には巨人が黄金の記念碑として、戰ひによつて得た權力を勞働によつて維持してゆく民衆をみつめながら立つてゐます。この時以來、すべての門は開放され、金によつて支配されるのではなく、民衆の意志によつて支配されるところの新らしい世界が作られました。この時以來、彼等が共同に生產し、共同に計畫する樣に、あらゆる苦しみも共にこれを荷なひ、あらゆる幸福も共にこれを分つところの

公平な世の中となりました。

△

それから後、かつて黄金の巨人を倒した時に働いた人々の一人も、もはや生殘つては居ない程長い年月が流れ去りました。ある時、この町にたのしげな若い人達の旅行隊がやつて來ました。人々は高い塔の前に立つて黄金の巨人を見上げながら、老いたる番人にたづねました。『これは一體何の記念碑なんですか?』と。けれども番人も、それが『黄金の小父さん』とよばれてゐることより外には何にも知りませんでした。御殿の中へはいつてみますと、破れくちた階段が奥につゞいてゐました。親切な案内人は、もう何年にもこの階段をくだつた者がないと云つて、若い人達の下りてゆくのを止めました。けれども物ずきな若い人達は、好奇心にかられて下つてゆきました。蝶番も錠前もくされおちて、トビラは無氣味にぎい〳〵となりました。かび臭い空氣がまづ彼等を迎へました。ろうそくのあかりで、人々はそこにたくさんのタルが皆空つぽになつて、ころがつてゐるのをみました。記號は既にみんな消えてしまつてゐました。隅の方に一番大きなタルがありました。そのタルの上に、珍らしい言葉がほりつけられてありました。これをよんだ人達には、どういふ意味だかわかりませんでした。その記號は「資本」と云ふのでした。

『資本! これはきつと、こゝで死んだ可愛想な惡魔の名前にちがひないわ。』と若い娘さんが云ひました。人々はうなづいて明るい方へのぼつてゆきました。(完)



職業婦人の立場から

月給と生活費

鈴木余志

——だいぶ不景氣さうな顔をして居るではないの。何うして？

——何うも困つちまつたわ。足りなくて。

——ホホホ、また豫算はづれ？　あなたの豫算は、アテにならない事を證明するやうなものね。

——まア、そんなに、からかはないで下さいよ。今の私は冗談どころではないのですから……。

——だつて、考へてごらんなさいな。まだ十六日ぢやアありませんか、半月で豫算をくるはすなんて、よつぽど、からかつても好い理由があると思ふわ。一體、あなたは、今、いくら月給をとつて居るの？

——いくらつて、九十五圓きりだわ。その外、一文だつてはいりやアしないのよ。

——まア、あきれてしまふわ！　女で、九十五圓も取つて居ながら、半月で、それが足りなくなるなんて。もし、私だつたら、その半分は殘してみせるわ。一體、なんで、そんなにいるのでせう、女のくせに！

——女のくせに……は一寸ひどい言葉ね。

——だつて、男と女とは違ふわ。男は、普通の女の二倍はいるから……

——ホホホ、何故？　なにから割り出してそんな計算が出來るの？　一つ承はりませう。

——さう、ムキにならなくとも好いわ。私をごらんなさいな。私なんか、タクの三分の一ぐらゐですむわ。いゝえ、もつと少ないかも知れない……

——フン！　あなたは、奥様でしたつけね。しかも、家庭經濟のお上手な奥樣なのでしたね。けれど、奥樣の生活と、私などのやうな獨立生活して居る、職業婦人の生活とを一緒に考へられちやア、一寸迷惑ですからね。

——あら、怒つちやア困るわ。たゞ、女は男より、生活程度も低いしするから、どんなにでも、きりつめた生活も出來ると思つたから、云つたまでの事なのですもの。

――さうね。あなたは私達のやうな生活をなさつた事がないから、考へられないのかも知れないけれど、女だつて、かうした、獨立の生活をすれば、男と變りはないではありませんか。女は、たくわんのお尻で御飯をたべ、女中代りのやうに働くものだと考へたのは、そりやア一二世紀前あたりの偉い御婦人が仰つしやつた言葉で――否、その時分の男が、居候の女に、たんとお金を費はせない算段をして、さう云ふ道德を作つたのらしい。けれど、少くとも、今の空氣にふれて、自分の力で、獨立の生活をして居る以上、何うも、そんな大へんな道德などに、服從して居ることは、出來ないことよ。第一、たくわんのお尻ばかりでは、九十五圓はおろか、五十圓の働きをするエネルギーさへ、なくなつてしまふぢやアありませんか。(なかば冗談らしく)

――さうですかね。でも、半月ばかりで、たりなくなるつて云ふのが、何うしても私には解らない事だわ。よかつたら參考のために、九十五圓が何う云ふ風に消費されるのかきかして下さいな。

――何う云ふ風に?

――エヽ、話したつて好いのでせう?

――別に損にもならない事らしいわネ。

――ぢや、あなたは、何う云ふ形式で、どの位の費用で食べて暮して居るの?

――フヽン! まるで、學校のカジカの試驗でもされるみたいね。ぢや、私のあらましの豫算表を見せて上げませう。先づ、私は、東京の郊外の、他人の家の二階を借りて、毎日、市内の某商店に通つて居るタイピストなのですよ。

――そんな事から云はなくとも解つてるわ。

――いゝえ、それから初めなくちやア、道順がくるふわ。……で、その下宿料から初めると、

室代(二間)――	二〇、――
賄ひ(朝と晩)――	一五、――
電燈代(五十燭)――	一、一〇

とかうなります。此の外、炭代やなにかをまぜて、たいがい、四十圓位拂ふやうになります。すると、もう此處で、九十五圓が、五十五圓になるわけでせう。それから、毎月、何うしても出る費用としては、

××驛から東京驛まで一ケ月のパス……………	四、五〇
晝めし、凡そ	四、――
會社の××會費	一、――
語學の月謝	五、――
新聞代(二種)	一、八五
本代	一〇、――

此の内、本代、十圓と云ふのは、きまつて本を十圓づゝ買ふ

と云ふわけではなく、毎月、平均十圓、本代として別にして置くので、それより以上になる事もあります。で、ともかくそれらをまとめると、二十六圓三十五錢と云ふことになり、前のと合せれば、六十二圓四十五錢なのです。これだけは、私の今の生活から、何うしても離すことの出事ない費用なのです。

――成程、すると、その費用を、全體から引くと、三十二圓五十五錢になるわね。で、それが、雜費になるのですね。でも、三十圓ありやア、殘るはずだわ……

――ところがそれでトン／＼くらゐ――いゝえ、たりなくなるのだから、あなたには可笑しいでせう。……その三十二圓五十五錢から、こん度は、交際費を取ると、たいがい、會社でのおつき合ひ――（祝儀不祝儀に三圓位、その他、五圓ほどで）毎月、七、八圓として置きます。それから市內電車が、何うしても、一圓五十錢の切符を買つて置いても、一ケ月ありませんから、たぶん、二圓やそこいら使ふでせうと思ひます。その次は、語學のけいこの夜など、外で食事をすませたりするのが、どんな簡單にしても三圓から五圓はいります。その他、ほんとの雜費として――（コーヒー、お茶だの、一寸した食料品、お湯、足袋やはき物、文房具類、その他）ざつと、十圓から十五圓位いります。……から、計算してくると、あと、殘るところは、五圓ぐらゐでせう。五圓など殘ると思つても、臨時に病氣になつたり、なにかすると、チヤンと月末にはなくなつて居るのですもの……。ほんとに、たまらないわ。

――成程、さう云ふ風に費はれるの。……だけど、一寸待つて下さい。今のあなたの計算の中には、衣服費も、化粧代もはいつてないやうだつたけど、そんなものは？……

――さう化粧代としては、私など、一つのものを……（お白粉だとか、化しやう水、クリームなど）たいがい、五ケ月位ゐづゝ、乃至、一年なども使つて居るので、別に、毎月の出なければならぬ費用として、數へなくとも好いくらゐですわ。それから、衣服費としては、とても、今のやりくりでは、出す事は出來ませんの。でも、昔、親が作つて置いてくれたのが、まだ間に合つて居ますので、今のところ、何うにか、それらで誤魔化して居るんですよ。でなければ、何うする事も出來ないはずぢやアありませんか。

――それにしても、あなたは、少し、使ひ方が亂暴のやうに、私は思ふけれど……。

――えゝ、もつと、何うにかすれば、何うにかなるとは思ひますよ。私が初めて、親の元を離れた時は、まだ、月給が五十五圓でしたもの。今から考へれば、四十圓もの差があつたのに、それで居て、今より、かへつて、樂に暮せたやうに思はれます。月給が上れば上るほど、出るのが多くなるのか

知れませんが、でも、たいがいの人には所謂、ブルジョア(？)になる可能性はあるのだらうと思ひますわ。それにもう一つ、今の資本主義社會にあつては、なまじつかケチにすると、かへつて、人に蹴倒されるんですからね……切りつめた切りつめた生活をしてごらんなさいよ、會社の重役なんてものは……あれでも生活できるのだから、月給は此のまゝでも好いだらう……位ゐにしか考へないのですからね。同じ仕事をしても、男と差別をつけられた報酬をもらつた上に、女同士の中で、また、差別されるのだから、ほんとに馬鹿らしくなりますよ。なんでも、昔は、貧乏でひまの無いのは『シャミ賣り』だつたのださうですが、現代では『貧乏ひまなしタイピスト』とか云ふさうですわ。それが、おそらくほんとだらうと思ひます。けれど同じタイピストの方でも、自分よりずつと少なく取つて居られる身は、一體何う云ふ生活をされるのか、本當に考へさせられます。ともかく、男だから女より、當然生活費がかゝつていゝなど云ふ間違つた考へを打ちこはす爲に、私達は、戰はねばならぬのです。私達は、もう扶養者あつかひされた時代から、だいぶ遠ざかつたのですもの。皆が皆、平等に働き、平等な位置に置かれなければならないのですわ。

――オャ〱、足りないことが、あなたに氣焔をはかせる事になるのですね。

――私は、負け惜みやではありませんもの。それに第一、繰かへして云ひますけれど、女だからつゝましく、男だから、でたらめにと云ふ、金のつかひ方にまで性的差別は、へんでせう。つまりそれは、女は家庭で、男の取つた金を使ふ、それも小さくなつて使ふと云ふ、何千年の習慣が、さうしたまでで、外に理屈はないでせう。取る方も男と同じなら、使ふ方も、自然同じになつて行く理窟、それを不思議がる方が、餘程、妙だと私は思ふの。あなた、どう？

――さあ、私には解らないけど、それが當然のやうでもあるわね。

――ぢやア私に同情する？

――それは、ちよつとね。やつぱり、その境遇に身を置いて見なくては、ねエ……

――つまり、理窟以上なのね。

――(完)――

同性に訴へて

石山清子

大地にもゆる、あの若草のハツラツたる元氣のそれの樣に、生き〱と輝く幼き生命の成長に、少しでも不當の壓迫を與へてはならぬ神の子たる現代の小國民を育む、兒童教育の名

の如何に尊く惠まれた職業であらう。天與の使命を一人我が胸にホヽ笑みながら、そのあこがれの殿堂に奉仕の生活を志したのは五年前の昔であつた。

人類文化の歴史的過程において、如何に女性なるものが虐げられた運命にあつたかを思ふ時、然もその原因の大部分が、經濟的從屬關係によることを探知する我々同性は、束縛なき自由な自己實現の境地をして、たゞ經濟的獨立を基調とした所においてのみ可能であることを忘れることは出來ない。我々女性の凡ての解放は、この一點から歩みだされてゆく。然もあらゆる體驗とその戰は、我々に與へられた試練であり、感謝でなければならない。

この意味において、選ばれた尊き唯一の職業こそ女教員生活のそれであつた。然もこと〴〵くピンクの薄絹をとほして眺める様な、審美的現象のみゑがき出されるにすぎないあのうら若い空想時代は、現實生活なるものによつて眞に社會のむじゆん不合理に遭遇する時、始めて我々の單純な人生が深く色づけられて行くことを知る。

さて私は貧しいながらその體驗によつて得た當時の事實を記すと共に、私自身の希望を述べて教育者の徹底的自覺を以て、虚僞と自己僞瞞の暗黒から明るい光明に自己の生活の根底を結びつけ、どこまでも雄々しく平等の中に生きられんことを祈るのである。

私は當時餘りに弱い女性であつた。たゞ一つ私の個性をして特徴づけてゐたものは、固い信念の一語より他にない、現實生活の裏切られた中にも、この信念によつてのみ私の求めて止まない理想の光は失はれずに來たのである。女教員といへば、すぐ教養ある婦人を想はせるであらう、道德觀念の强い、清淨な女性が描かれるであらう。併し、その偶像は內的生活において、同職員間の互に自己をより偉大に美しく見せんがための技巧手段競爭が、暗默の嫉視となり、あるひは單なる校長のための一種の道具であることを、しば〳〵感じさせるのである。現代の文化において、人間の生活が如何なる階級においても各自の目的の過程でこそあれ、他人のための手段であつてはならないのである。されど他の職業に比して比較的優秀な地位にあるこの職業に執着の餘り、自己の主義主張を叫ぶより、自己の精神の生活の豐富を願ふより、唯一の恐怖でありパンの問題に直接の打擊である、馘首の運命に脅威されつゝある彼の女達の多くの場合單に古い年數を經た功勞によりて、辛うじて校長のイスを獲得したにすぎないであらう偏見な無能な校長の前にさへ、不合理な束縛と支配の忍從生活に甘んじてゆく、のみならず安價な信用を得んがためには、愛する家庭をもぎせいに供して、凡ての自由の生命を奪はれた終日の過勞を、課業後更らに校務といふ名のもとに、ほとんど機械の様に職業化されてゆく。慰安所であるべき

家庭では、彼の女をして更らに主婦としての雜務をよぎなくせしめる。然も過勞の結果、その身體の衰弱を知りつゝも、無欠勤を主張する徒らな勤勉の風に化せられて、生命にかゝはる樣な重大な病氣すら、病氣欠勤によりて、安らかな靜養を求むることに躊躇しなければならない。如何に神聖なるべき教育者といへども、物質的に貧しい俸給生活者として、一日の欠勤すら報酬の上に影響せずにはゐないことを知るとき、先づ、自己の健康を省みるより昇給を考へ、賞與を考へ、更らに職を失ふ場合の不安と動搖を思はねばならない。實際の場合に病氣欠勤に對して、校長及び職員はどれだけの理解と同情があるであらうか、あらゆる無產階級の職業者のうち、殊に物質生活に支配されねばならぬ者において、生命であり資本であるべき自己の健康は永久にこの不安より救はれることはない。

私達は形式の完全を願ふより、單なる美名を願ふより、神聖な教育者としての內的生活において、十分な研究時間と目的の內容を改造改善する事が、私達の直接問題であることを知らねばならない。

教師は校長を、校長は視學を、視學は教育課長のために他を壓迫したりギセイに供したりすることの罪惡であることは、餘りに解りすぎた問題である。

我々の親しき同性よ、無能なる支配者の下においての自己僞瞞から一日も早く解放されて、平等な自由の天地に、自己の能力の發展を期せんがために、古い傳統の形式を破るべく大勇氣を振つて雄々しく歩まふではありませんか。

私達は最早、無批判に不當な支配の下に甘んじてはならない。聰明な考察と徹底的批判を以て、時代の進步に貢獻しなければならない時であります。（六、一三）

工女生活の一日

藤本ふみ

『重なつて歩つてはいけない。お前達は便所へ行くのか遊びにゆくのかわからない。便所へは二人一度に入れないではないか。』

重苦しい足を引きずつて監督(かんとく)の目をうかがひながら、やつと二階へ上つた時、監督からの早速の言葉であつたのです。何といふ情ない冷たい言葉ではありませんか。

工場は監獄だ。と、たれかが云つた樣でした。餘りに私達勞働者を苦しめた、譬へ方ではないか、と、私はへんな氣持で聞いてゐました。だが一事々々を見る時は、全くその言葉に一番よく適合してゐる事がわかります。

朝七時に仕事にかゝりますと、晝食までは一分の休みもありませんので、少なからず、疲勞といやけがさして來ます。

長い間目まぐるしく回轉してゐる機械の音のみの中にゐて、濕つたい空氣と油の臭が鼻を刺すのみですから、外氣にふれる事は何より私達をよろこばせます。かうした生活にある私達は、人々のさくる所をも、したつて出て行くのです。そしてあのいやな臭も忘れては、何か少しでもさゝやいて歸つて來る事が、また總てを忘れる輕い氣持です。かうした二三分のいじらしい思ひさへ忘れさせ樣と奪つてゐるのです。

　一日中一番樂しみにしてゐるのは晝休みです。十二時の氣笛がなると、動力の止るのが早いか、私達の飛び出すのが早いかと思ふほど、よろこんで、手も洗はずに程近い食堂へかけ出します。土用の水道の水の樣な湯をすゝつて、食堂を出る時はいつも十五分過ぎてゐます。三十分の休みはあと十五分よりありません。

　男も女も疲れきつた體を、みんな窓際へよせて來ます。そして金網張の窓からいつもの青黑い顏を出して、恨めしさうに道歩む人を眺めてゐます。私達はこうして男子の樣に、話したり、笑つたりして、少しでも多く體をゆるめる事につとめてゐます。だが大きな人達は、晝休みでも遊んでゐる人は見えません。家庭の人である婦人は、家庭の仕事を少しでも樂にしようとして休まずに、洗濯をしたり、下駄を洗つたりしてゐます。甚だしい人は足袋を繕つたりしてゐます。普通の家庭婦人の仕事をして、その上に工場勞働をなすのですから、一人の婦人が二人前一日に働いてゐるわけです。少しの休みも臭のつく間もない有樣です。私達が生きるためには、これまで働かなければならないのかとつく〴〵考へられます。工場にある男子が苦しいと同時に、女子も苦しい事は論ずるまでもありません。家庭生活にある工場婦人は、男子以上の重荷を負はされてゐるのです。短い晝の休みは一寸の間で、また再び機械の音と共にコツ〳〵動き初めます。

　午後のゆつたりした氣持で、滿腹を覺えてゐるのですから、近頃の樣に暑くなつて來ますと、あつち、こつちにゐ睡りが始つて來ます。少しの元氣もない死人の樣な顏の人達がゐ睡りするのですから、それは堪らなく氣の毒になつて來ます。そうかと思ふと、睡けをさけるために懷や、かくしから何か出してムク〳〵と口を動かしてゐる人も見えます。とにかく一日が長いので、せんべいをかじつたり、大福を食ふ事はゼイタクとでも云ひたい位です。

　ゐ睡りをしたり、口を動かしたりして、時計と首引きしてゐる中にやつと時間が來ます。すゝけた顏と油だらけの手を、タラ〳〵と申譯見たいに、水にもつかぬ樣な水道で十分前に洗ひます。なにしろ家へ歸る時ですから、水が少なからうが汚い事は氣の付く者もなく、一人一人がさびしい笑を含めてゐるのみです。

　五時の氣笛が鳴ると一日閉された重い鐵のトビラは開かれ

てやがて我先にと、雪崩れ出るカゴから放たれた自由勞働者は、生活のあわたゞしさにいそいでゐます。私は外氣にあたつてホツトした氣持で邊りを眺めます。終日不潔な工場生活にあつて、一日の安樂を求むべく薄汚ない暗い、一日人の來ない家庭へ入つて行く人達を見ずにゐられません。結婚生活にある勞働婦人は、工場から放たれたその瞬間に、家事育兒の苦勞を背負つて歸つて行くのです。

工場にあつて金のドレイであると同時に、家庭ドレイである私達婦人は、たゞ働く事のみの私達であつて、少しの樂しみもなく、無意味な生活をしてゐる事は出來なくなりました。私達婦人もこのドレイから飛び出して、男も女も同樣に社會的に地位をしめて働いてゆく社會を實現する事を望みます。無智な弱い私達工女は何も知りません。私達一人一人が何をしようとしても、それはとうてい出來ません。それで私は私達仲間がほんたうにしつかりした心を合せて、私達をドレイにしてゐる者から解放しなければならないと痛切に感ぜずにはゐられません。

「職業婦人」聯盟に就て

池田こぎく

高い山の上にガケがある。そこで、二人の男が働いてゐた。石を割るのである。根太い松の木と自分の胴とを、太い綱で結び合せて、男はガケの端から下のタマリ場に石を轉し落してゐる。いい加減タマリ場に石が集ると、二人の男はそれを車に積みはじめた。下の街道にまで運ぶのである。毎日重い車でグサ〱と堀返された坂道は、車の輪を七八寸も吸込む。でも男は止めようとはしない。汗をふきながら、働き得る限り働き通してゐる。

月ヶ瀨に探梅遠足をした日のことです、私はかうした男達の働き振を目の前に見せつけられて、泣きました。それも、最初ガケの上の二人を見つけた時には、たゞびつくりして立止つたと言ふに過ぎませんでした。「まあ！」と言ふ驚異が、その作業の發展に異常の好奇心を持たせた、と言ふに過ぎませんでした。が、見てゐる内に、どうしても見物らしい他心ではみて居れない、何とも言へない懷しさがわいて來たのでした。と言ふよりは、二人の男が持つてゐるあの「尊さ」に感動させられて終つたのです。私はすつかり自分の行手を忘れて終ひました。そして、ヨシ〱と車を引いてくる男が、私のすぐ前に來るまでに、何回か涙をぬぐひました。

さうだ。本當にさうだ。あの谷底の一軒家に住む若者であらうが、離れ小島の苦の家に住む老婆であらうが、それはどんな場所に住む、どんな人間であらうが、とにかく、生きるべく生れ出て來た者は、何を忘れても、みんなかうして働く

ことだけは忘れやしないのだ。働けなくなつた老人、病者は別として、手足の立つ者は、みんな手に合つた仕事を探して働くのだ。たれも一日の仕事をも怠らうとはしないのだ。と言ふ人間の純潔さ、正直さ、尊さ、を感じたことが、私をそんなに泣かせて終つたのです。

人間である以上、與へられた仕事の前に懸命でない者が、一人だつてゐませうか。生きたいものだ。より幸福に。今日より明日、明日より明後日はより幸福であつてほしい。と言ふ心をごまかし得る人は一人だつてゐませうか。それは寧ろ事新しくそんなことを問うて見る自分の馬鹿加減にあきれる、と言つてよい程度の話です。

朝八時から午後の四時まで、八時間ぶつ通しの心身勞働に疲れてゐても、まだ矢張り寢て終ふ氣にはなれない。原稿紙を引張り出す。何か書く。書物も繰る。夜は更けて行く。紅燈のちまたで遊びあくことを知らぬ男女達が、揚げ時間前の一刻をも惜しんで歌ひ續ける樣に、仕事をやめねばならぬ時間の來るのが惜しい。睡眠前の一分をも大事がつて、床へ書物をひきずり込む。その素直な可愛らしい自分の姿を見た時、何としても涙がにじみます。個性に生きる者には、仕事が遊戯です。働くことが宗敎です。またそれが藝術です。

こんな風に話を進めて參りますと、如何にも私自身が堂に入つた生活者らしい風に聞えて、いやみがさしさうです。が、決してさう言ふ譯ではありません。ただ、さうありたいものだ、と言ふ、制し切れない心願を、表現の拙さが、ついかう運んで來たものであることをおわびします。

さうです。本當にさうです。それが私の心願なのです。だから、私は、私を疑ふ長官つまり監督者をとがめたくなるのです。力一杯、喜んで、素直に、働くことの出來ない樣に、私を束縛しうとする他人の干渉、規約、法令、の凡てに、私はつつかゝつて行きたくなるのです。と言へば恐ろしい樣ですが。それは弓引く心ではないのです。と言へばまた意氣地ない樣にも聞えます。さうです。意氣地がないのです。金をとらなければならない爲に職を持つた。職を持つた以上は、笑つて暮らすのも一日だ、泣いて暮らすのも一日だ。なら矢張り笑つてる方がよい。と言つたその場のあきらめが、つまり私を意氣地なしに仕立てゝ終つたのです。だけど矢張り燒殘りの杭には火がつき易い、と、言ふのでせうか。觸れる度に、見る度に、笑ふのならば、もつと大口をあいて、腹の底から笑ひたいものだ。と希ふ心が飛出してまゐります。押えつけて機嫌をとつて見ても、たたきつけて寢かせて見ても、時には、ねんねん小唄を歌つて聞かせ見ても、とにかく暫くはそれで事が濟むにしても、終始一貫、幾年たつても變らないで、かう訴え出てくる、可憐な、忠實な、私に、私がどうしてより以上虐待を加ふることが出來ませう。

一日も早く彼を彼の欲する樂園に送り屆けてやりたい。そしてそこで力一杯、喜んで彼の欲する通りの働きをさせてやりたい。彼の持つ生命は、きつとその樂園で、大木にまで伸展するに違ひない。と、思ふと、一時もジツトしてられない焦燥を感じます。しかし、それは人の力では出來ない仕事なのだ。と言ふよりは、それを他人に賴むことは、より以上の恥辱だ。自己虐待だ。自己束縛だ。と、思ふとたまらなくさびしくなります。さうです。私共は自己を生かさうとするには、餘りに孤なのです。夫に死に別れた無產の婦人が、泣く子を懐にして職についてゐる。その悲慘事をも、どうしてあげることも出來ないまでに私達は孤なのです。

私は、私と同じ氣持の方と、固い握手をしたい。と希ひます。丁度玉をつないだ數球のやうに。そしてその球數を手首にかけて念佛に餘念のない信者達の樣に、溫く打ちとけた同志の愛の力にもたれて、專心に、懸命に、自己の境遇を切り開いて行きたい、と希ひます。ある種の有力者、名望家、その他一切の他人に、泣きついて生かしてもらひたくはない。と言ふよりは、そんな厄介はかけたくない。どこまでも自分達の力で、自分達を伸ばして行きたいものだ、と希ひます。とこゝまで書いて時計を見ると、今夜ももう十二時五分過ぎてゐます。私はかうして生きてゐます。しかし背後には、やるせないさみしさが潜んでゐることを、皆樣に訴へます。

握手しませう

私たちは、各地に散在して、身うちに溢れる熱を持ちながら人知れず埋もれたまゝに孤立してゐられる同志が、非常に多いに違いない事を信じてゐる。私たちはさういふ姉妹たちと、固い々々握手をしたい。

今こそ私たち婦人の起つべき時だ、今こそ、私たちはたつた一つの、否半分の力でもおろそかに放棄すべきではない事を思ふ。

全國に散らばる同志きやうだいよ。

あなた方が東京にいらしつた時には、きつと會ひませう。會つていろ〳〵話し合ひませう。

私たちも各地方に出かけて行つて、方々の姉妹と親しみたい。私たちが各地のみなさんにお目に懸る機會を作るために――それは、地方に在る姉妹たちの力添がなくては出來ない――あなた方と私たちとで協力して、婦人の懇話會や講演會等をあちこちで催さうぢやありませんか。七月八月は殊にかういふ會合をするに相應しい時節です。私たちの希望を容れて、みなさん、どうぞこの計畫を進めて御盡力下さい。具體的なくわしい事は、書面で御相談をいたします。

貧しければこそ

代々木けい子

◇

貧しければ、職を得んとて石造の、
　階段のぼる、人目けわしき。

◇

應接間――社長を待てるそのひとゝき、
　足袋もはかねば、わが身いとしも。

◇

ドアの外、人のけはいのしてければ、
　油氣なき髪、びんのほつるゝ。

◇

見上げては、また見下して、冷かに、
　あざける如し、葉巻のけむり。

◇

タイピスト、店のかざりのタイピスト、
　絹の着物に、白粉も濃く。

◇

タイピスト、失禮ですがタイピスト、
　「そのお召物では」と、社長は言ひぬ。

◇

着物とて、ほかになければ恥しく、
　泣かんとせしが危く笑ふ。

◇

貧しければ職も得られず、しほ〳〵と、
　歩むすがたに、風よ、吹け〳〵。

◇

女とて、悲しみ強し、かの社長、
　憎しみ強し、燃ゆる心はも。

◇

われは女、さわれ共々たゝかはん。
　大地もゆるげ、叫べ男の子等。

――六、二十二日夜――

途上の苦闘

鹿野つぎ

私の遠縁の者に、とつて十七歳になる娘があるが、今年二年ぶりで會つてみると、隨分變つて居るのにおどろいた。十五歳と云へばまだ身のまはりのことも、碌り考へてみるやうな年頃でもなかつた。學校へ通ふ傍ら、親たちに甘やかされて、二三の稽古事にでも精出したと云ふくらゐが頂上であつた。それが此の春で學校を卒へて、先づ前途の方針でも考へてみようとする頃になると、まるで二年前の彼女とは思へなくなつて居た。それほど彼女は大人びて、そして考へ深くなつて居た。

『何もくよ〱するにはあたらない。無事にお嫁入りでもしたらば、良いではないの』と、私は云つてみた。『をばさん、とても私には恐くてできません。私の姉は今三人の子供を抱へて、義兄に先立たれて、それに酷い苦勞をしてゐます。私と同じやうに甘やかされて育てられたものですから、姉の苦勞は氣の毒ですけれど、矢張り力がないから仕様がないと思ふ位です。どうかをばさん、私はともかくも自分に安心のできるまで、自分の體に力をつけてみたいのです。』

私はそれを聞くと、かう云ふ子供にまで（年齢の差が云はせる事であるが）、知らず識らず考へさせる問題――此の時代の力といふものを、思はないわけにはいかなかつた。それは決して彼女のいゝ加減な、思ひつきでも氣紛れでもない。彼女の小さな心の窓にうつつた、時代の眞の要求に違ひないと思つた。此處でちよつと附け加へて云つてみたいのは、彼女が婦人に關する、色々な方面の解放運動については、全く無智そのものであつたといふことである。彼女はたゞその幼ない眼で見、感じ、おびやかされ、そして全我に訴へてかう思ひ立つたのだ。

私はかうした時代の趨勢を思つて、眞に彼の女の心に僞らないもののある事を知つた。私はそしてかう云ふ一個の婦人の覺醒が、結婚に至る前に、母に至るまへに來たとしたなら

ば、一體現今であつては、どう云ふ生活が彼女らに適當であらうか、とも思つてみた。

今日唱導されてゐる婦人に關する問題は、かう云ふ疑問から見ると、割合に解し易い。彼女らはみんな澤山の要求を持ち、そして明るい生活を同じやうに期待して居るのだ。既に困難な生活に陷つて居るもの、不平不滿に充たされてゐるもの、虐げられ酷使されてゐるもの――さう云ふ人たちの爲めの、救濟であり啓發であり、また要求として唱導されてゐる事に變りはない。

けれども私は翻つて、既に一歩からかう云ふ必要をもつて歩み出す人々の、若い時代を思はずにはゐない。そこにはあらゆる要求、主張、呪咀よりも更らに強いものが來なければならない。自ら當然として起つ人々の前には、時代も根柢から動かさるを得ない筈である。それから初めて人類共存の生活は、創められるのではないか思ふ。けれどもかう云ふことは未だ遙かな希望に過ぎない。寧ろ切實な問題は、もつと手近なところにあるのだらうと思ふ。

こんな考へを懷きながら私は、此の娘がかうした困難な時代にあつて、どう云ふ方針に着かうとしたかを思つて、自然と微笑を禁めえなかつた。是れは決して淺薄なる、彼女の打算ではない。婦人にとつてそれだけ、戰慄すべき他面の幾多の低い生活があるといふことを、明白に物語るものだと思つた。

私たちはまだ〳〵それ〴〵の方面にあつて、苦しみぬいて行かなければならない、寧ろ現代においては、その事がより力強き唯一の開發の前提であり救ひだと、思ひ極めるよりほかない。

私はその娘の相談には進んで肯定したものであつたが、彼女が立ち去る時には、何となく温かい涙に誘はれた。『いづれにしてもあなたは苦しまなければならぬ』と、さう娘に思つた事は、同時にまた決して彼女一人のみの問題ではなかつたからである。　―(六、二〇)―

婦人が結婚後も引續いて職業に就いてゐることは幸福か？ 不幸か？

—諸家の解答—

◇ 守屋東

一、結婚後も職業に從事する事はまだ今の日本の社會制度ではむりと思ひます

一、兒童に對しても產婦に對しても凡て何等保護設備がないからです。

◇ 中村つね

職業婦人と云ふ特有の言葉を用いてゐる時代には決して幸福だとは思ひませんそれは私達婦人が外へ出ては職業婦人として、家にあつては家庭婦人として、二重の奴隷であらねばならないから。要するに現社會では不幸です。

◇ 河崎夏子

來るべき社會ではともかくも、今の世では結婚後も婦人はその經濟的獨立のために、身にふさはしい職業をとるのが當然だと思ひます。

然し現下の樣な勞働條件のもとに、なほ職業をとらねばならぬことは獨り結婚した婦人に限らず、男女ともに不幸であるにはちがひありません。

◇ 太田さち子

不幸であると思ひます。結婚前に職業に就いてゐるのが不幸であると同じ意味において。女の自由な生命は結婚前だとよく世間では申しますが私はさうは思ひません。女の若々しい命をしぼつてしまふのは、生活のために餘儀なく無理なあるひはいやな仕事をしなければならないことです。長い勞働時間と薄給と同じ働きをしてゐながら男に頭があがらないと云ふ馬鹿らしい習慣とは、食ふための心配がなかつたら職業婦人なんか眞平だと思はせるに充分です。と云つて私は女が職業を持つのが惡いと云ふのではありません。一人の女性を養ふに充分な給料と、せいぜい八時間位な勞働時間と、公休日とが與へられ、かつ同じ仕事に對しては男子と同樣の待遇をする樣にしたら女が職業に對する氣持も變つて來るでせう、私がまだ未婚者である故にさう思ふのかも知れませんが、子供でも澤山あつたり、また乳ばなれのしない赤坊をかゝへてゐる場合は、特に未婚者より不便か

も知れないが、大體から云つて結婚してもしなくても、興味のない職業にお金が欲しさについてゐるのは幸福だとは考へられません。

◇

幸子

婦人が結婚後も引きつゞき職業に就いてゐることはたしかに幸福にちがひありませぬ。それでこそはじめて、妻は夫の奴隷であることから完全に解放されます。但しこの場合「母」となる事は現在社會制度の下においては熟考を要することゝ思ひます。

◇

林てる子

結婚してからも子供でも、なくつて時間の上にも閑暇があり氣持ちにも餘裕のあるうちは、むしろ家庭に蟄居するよりは職業に就いて居る方が幸福でせう。然し子供でも出來て生活が煩雑になつて來ると、多くの場合兩方を兼攝することは母たる婦人にとつてはもちろん子供にとつても不幸でせう。實際現在の私達の家庭の用事は婦人一人を充分犠牲にするだけありますし、一方の職業生活と云へば、たゞ婦人であるからと云ふ理由で同一な仕事に對してでも廉く拂はれると云ふ様な狀態の下では、どつちみち婦人は救はれません。

結局どちらが婦人に幸福か不幸かなど考へる閑も與へずに、さうした二重負擔に追ひ込むところのものは現在の社會制度そのものでありますから、現在の社會制度結婚制度が改變されない限り、婦人は如何なる境遇を選ぶとも結局隷屬と屈從を餘儀なくされるだけでせう。

◇

西川文子

婦人が結婚後引つゞき職業についてゐる事は幸福です。それは職業をしてゐることによつて、社會と直接交渉をもち夫と共に社會の進歩にともない、夫婦間に深い溝をつくる事からまぬかれます。また一面から見ると結婚後妻を職業につかしめる人は、婦人を理解し人格視してゐる人です、それがすでに幸福です。たゞ今日の處貧乏な人のみが妻を働かせる事になつてゐますから其點で不幸かもしれません富有な人でも婦人を尊重してゐれば妻にも爲たい事をさせるのが本當でせう

◇

渡邊よし子

男子の專制から脱する手段が婦人の經濟的獨立であることは何人も認めるゐることであります。私は婦人が自己の地位の向上をはからうとするならば、そして將來の幸福を望むならば、結婚後も引きつゞき職業につくのが當然のことだと思ひます。

◇

山村貞子

結婚後も職業にたずさわつて居なければならない人は非常に不幸の人かも知れません。併しこの場合の意味はその人の餘儀ないお氣の毒な事情へ對してだけだらうと思ひます。決して結婚後もま

だあの人は職業についてゐると言つて一種の蔑視でみるやうな事はいけないと思ひます。ですから御問合せの幸か不幸かと云ふ事は、その人の事情や境遇の上ばかりの問題であつて、職業についてゐると云ふ事は第二の問題の様な氣がいたします。一口に申しますと職業について居ると云ふ事は別に問題でもありませんが、就い居なければならない事情は不幸と言ふことになるやうに思ひます。

◇

中河幹子

およそ結婚の前後をとはず、現在のやうな状態では勤めに出る事は男にとつても女にとつても不愉快です、決して幸福だとは思へません。ことに女は子供が出來たりすると大變な苦痛になります。

現在では仕事そのものが多くは無趣味な煩はしいものにすぎないのみならず、それは自分を生かすものでも社會を生かすものでもあり得ないやうです。故にたとへ家庭内で出來る職業でも經濟的にその必要がなくなれば、それをやめて自分なり家庭なりを生かすもつと直接的な仕事に從ふ方がよつぽど幸福です。

今の状態が變つて婦人を明るくし輝かすやうな職業が出來れば、勤めに出かけることも不幸ではなくなると思ひます。

◇

黒崎ゑつ子

結婚後職業に從事してゐる事を一概に不幸だとは斷言出來ないと存じます。然し現在の家族制度の上社會の狀態から見ますと幸福だとはいへないと存じます。

家庭内における職業ならばそんなに缺陷も生じないと思ひますが、一日一定の時間いやしくも八時間までの永き勤務に從事する事は不幸であると思ひます、その理由は、

一、主婦の任務を果すことが出來ない

二、第二の國民の養育、教育が出來ない。

三、母性の特權を消失して能力の減退を見ること。

◇

山内美那

御質問の要旨は結婚後婦人が職業を離れても生活に不自由を感じない階級の方に就いてゞあらうと思ひますが、そうした人達に就ては私はよく分りませんから紡績女工さん達に就て簡單に愚見を述べさせて頂きます。

私達の姉妹は未婚の時は、ほとんど大半の者は紡績會社の寄宿舍に居りまして食べる事と寝る事とは會社が世話してくれますので直接それを心配する事は入りません――ブルジョアの子女の學ぶ女學校と待遇において全然比較になりませんが――併し既婚者は寄宿舍へは入れない事になつて居りますので新たに家庭を造らねばなりません。新に造られた家庭には無制限の勞働が私達を待つて居りますなぜなればこれ等の姉妹達の結婚する相手は、大抵の場合は同じ境遇にある男子の方が多いからです。從つてまた夫たる男子一人の勞働賃銀ではとても一家の經

濟を支へて行く事の出來ないのが常ですから、私達の階級の婦人は結婚する事に依つて、精神的及び肉體的に苦しみを增す場合の方が多い樣に思はれます。ですから資本主義社會における勞働婦人は、自分が結婚後も引き續き職業に就いてゐることが幸福か不幸かなどゝ考へてゐる餘裕はありません。それが幸福であつても不幸であつても、夫婦共稼ぎをしなければドン底生活さへも維持して行く事の出來ない私達勞働婦人は、資本主義擁護の鐵鎖が斷ち切れた時にのみ眞實に心からの幸福を感ずる事が出來、それを豫想する度每に幾らかのよろこびと幸福を感ずることが出來るに過ぎません。

◇

森　蘭　子

私はたゞ今幸、不幸を斷言する事は出來ません。が結婚後引き續いて職業についてゐなければならないと云ふ樣な方は大抵は經濟上から起る事で、許す限りば結婚後は家庭の整理婦人としての修養を事らにして、その餘暇を家庭職業(例へば内職など)に利用した方がよろしいかと思ひます。家庭の仕事も一通りではないのに外に出て活動して、心身ともに疲勞して人並に家事萬端を司るといふことは困難な事ではないでせうか、昔でも現代でも女性はどこまでも女らしく、女性の本分を全うすると云ふことが最も幸福な事ではないでせうか。

◇

草　鄕　仁　子

その良人の性格にもよりませうけれども、多くは幸福といふ事は出來ないと思ひます。なぜならば現在の不平等な社會制度、家族制度の下にあつては、どうしても婦人は精神的にも肉體的にも二重の負擔であり、なほかつ職業によつては生理的にも母性の本能を失ふものさへあります。また母となつてその子の爲に職業のあることが幸福でありませうか、これ等の點に對して充分なる保護救濟の道が開かれ實行されぬ以上、深く考慮を要する事と存じます。

◇

竹　内　照　代

未婚者ですからたしかな事は申上げられません。併し私の考へでは若し職業を持つてゐることが夫の心に背かないことでしたらそれでよいと思ひます。夫の滿足でさへあればどちらでもすべて幸福だと思ひます。何故ならば僅かな物資の缺乏は心の生活の如何によつて補はれます物質に滿足であるべきために、夫の心のまゝでない方法は取りたくないと思ひます。妻は夫の心のまゝで、それで幸福な住み上い生活であることを希望しますから

◇

山　田　わ　か

自分一個の結婚生活乃至家庭生活といふような狹い範圍を超越して、全社會のためとか全人類のために自已を全く無にしてゐるような大人物は別として、私共凡人の場合においては、少くとも、既婚婦人の場合においては稼ぐと云ふことは私

共の生活を支へる單なる手段であつて、私共の生活の本體は私共の結婚生活乃至家庭生活であるから、その結婚生活乃至家庭生活を平和に健全に進歩的にするためには、人々それ〴〵の位置と事情によつて職業を續けるもよし、捨てるもよしと私は思つてゐます。つまり既婚婦人の本當の意味の幸福または不幸は、職業を續ける續けないといふような外界の事柄によつて定められるものでないと考へるのです。

◇

栗　花

資本主義社會の存在する限り、職業婦人それ自身の職業の意義を理解せざる限り到底幸福てふ事は望まれざるべし。

◇

小島いよ子

家庭における心配なく、趣味として職業に從事して居られる方を除いては不幸と申上げねばならぬと存じます。如何ならば、結婚後は妻相當の責任が生れると同時に、精神の上にもまた身體を働かす上にも不勘勞力の消費を必要とせねばなりませぬ。その上他に働くとすれば過勞は免れぬ事實と存じます。殊に系類多き家庭とか、または夫婦のみにしても小供の生るゝに至つては、到底他に出でゝ樂しく働く事が出來やうか、必ずやそこに無理があらねばなりませぬ。家庭經濟上多少の滿足を得る代償として身心の過勞を提供する事は、家庭婦人の一大不幸と言はねばならぬと存じます。

◇

久布白落實

職業は終生の方針を取る可きでせう、然し妻となり主婦となり母となるは容易ならぬ天職ですから、婦人としてはこの天職を完成する意味において、己が力に適する一つの職業を選んで修得しかつ熟練すべきでせう。

◇

樫見露子

現在の資本主義の社會においては一切は不平です。ですけれどこのまゝこの社會が存在をつゞけて行くであらうとは思はれません。新らしい社會の芽生えが萠え初めてゐるのです。二十世紀は婦人と子供の社會と申されてゐます。で私はかうした新社會を豫想した見地から簡單に御答へ申します。

婦人が何等かの生産に從事することは人間としての當然なことです。職業もなくして生活する時、そこに男性への隷屬が必然に生じて來るものです。新社會建設事業は男女兩性の協力にまつべきものですから、男性への隷屬を打破してゆく上にも、私は職業婦人として結婚後も立つてゆく事は社會的にみた時は幸福だと思ひます。その人は新社會の豫備教育をうけてゐるとも言ひ得られますから。

◇

生田花世

私は結婚後も引續いて職業につく事が出來たなら幸福であると思ひます。しかしこれは他の問題とちがつて、不可能に

なりやすい事情があまりにも多く現はれて來ることを知らねばなりません。その中でも育兒といふ事がありますし、家事の增加といふ事もありますし、良人の職業からのよぎない故障といふ事もあるだらうと思ひます。そして家庭婦人として閉ぢこもつて了ふ事も、あながち不幸ではないとは申しましても、その時が來ればいつでも職業に復活するだけの人間としての勇氣は非常に必要です。

◇

野原欣子

職業婦人が結婚後も猶この職業につき得る事は私は幸福であらうと思ふのです職業に就きたくとも就き得ない婦人がゐるではないでせうか。少なくとも現在及び未來の女性が眞の叫びをする時、家庭の人となつてゐても眞劍に婦人運動を叫ばうとするには、少なくとも自分自身を此の中に投じつゝなくてはうそであります。結婚と職業とは相まつものであります從來は男子にのみ獨占されてゐた事です。然し此を女子が獨占し様とするのではない。お互ひの理解を得て、歡喜の內に職業に就き得る婦人は幸福であります。

◇

武藤つね

お化粧、芝居、音樂會、旅行、種々な遊藝のお稽古が、生涯の仕事である今日の上流婦人の生活を以つて幸福といふならば、共稼ぎの貧乏暮しはたしかに不幸です。また貴婦人生活を以つて幸福とおもはなくても、色のさめた袴に、さゝくれだつた日和下駄をひきずつて、やつと家へ歸ると且那樣の御膳ごしらへをするといふ私の生活から云へば、職業婦人の生活が幸福であるとは考へられません。が私は娘時代よりも特に不幸になつたのではありません。一日の仕事を終へて歸つても、幼い弟妹の世話やなにかで終日を働くことに小供の時からならされておりました。娘時代から結婚生活をはじめて四年なる今日までに一番私どもを苦しめて來たのは、私どもが貧乏であつたといことふです。

◇

坂本眞琴

職業にも種々ありますので一がいには申されませんが、普通の婦人の職業なら結婚後も子供が出來るまでは、却つて氣分を新らしくする上にいゝと思ひます、複雜にならない間の家庭は、職業にたづさはつてゐる程の人には餘り閑散に過ぎると思ひます、職業をもつ事はやつぱり幸福です。

◇

金子はる

一、幸福とも不幸とも斷言出來ません

二、婦人一個の立場から云へば、從來夫隷屬視の最原因たる經濟上にも獨立するといふ點では、結婚後も職業にあることはいゝでせうが、然し今後の男子には必ず「妻を養ふ」といふ考へを持たぬ樣になるであらうし、婦人もまた男子に養はれてあるのではなくて、人間生活の半面を補ける爲め謂ば當然の分配を受けるの

であるから、結婚後はある特別の場合の外は職業を持つ事は好ましくないと存じます。

自己の健康上、家庭の精神と、まして子女教養上には、妻たり母たる者の職業(家庭外)にあることは、自他共に必ず幸福だとは思ひません、むしろ夫の完全な伴侶、家庭の中心であるべきだと存じます然し健康上、子女教育、その他の支障なく夫や世人の理解あるときは、結婚後といへども婦人の職業は決して不幸だとは思ひません。要するに、幸不幸はその人に依つて定まることゝ存じます。

◇

川島祐子

私は目下三人の子供をかゝへておりますが尚十五年來、はきなれた袴を脱ぎかねております。ひとつは、貧しい女教員の月給でもそれが私ども一家にとつてはぜひなくてならぬ金であるがためでもありますが、そればかりでなく、慣れてみますと別に不便なこともいやなこともなく、親子がそろつて朝から辨當持ちで學校通ひをするのも悪くはありません。幸福とも考へませんが不幸ともおもひません。夫も小學校の教師をやつております。

◇

鈴木餘志

婦人が結婚後も引續いて職業に就いて居ることが幸か不幸か、それは個人々々の立場とか、感じ方一つのことでもありまた私としても、まださうした體驗を持ち合せておりませんので殘念ながら、お答へ申しかねます。たゞ婦人も、結婚後でも當然しなければならぬ事を、幸か不幸かなどゝあやふませる――否現に婦人の職業が「結婚するまで」ときめられてあるかのやうに思はしめるところの現代の家庭制度――社會制度を先づ何うにかせねばならぬのではあるまいかと私は思ひます。

◇

林ゆき

「不幸」とお答へします。理由としては、職業に専心になれないからです。もつともその境遇にもよりませうが、人は二人の主に仕ふる事は出來ませぬ。自己の職業を専念に致す事によつて職業も趣味があります。なまなかに職業に從事するのは本心ではありますまゐ、そして家庭の樂を味ふ事も少からうと存じます。

◇

中山つねい

幸不幸は一概には申上げられません。生活の糧を得るために餘義なく職業についてゐるのでしたら不幸です(しかし餘義なく職業についてゐるにしてもそのために、安らかに生活の糧を得らるゝは幸福な事です)配遇者にも、よく理解されて自分の趣味のために職業についてゐるのでしたら、本當に幸福なことです。但し子供の教育を閑却しない範圍においてゞす。けれども子供も舅姑も何もない人が、内職もせずに家庭にあつてたゞ時間を徒費することは、その人自身はもちろん社會のために不幸であると思はれます。

◇ 角谷とみ子

私は不幸だと思ひます。精神的にも肉體的にも、どちらにも不幸です。私は家の中で何にもせずに遊んで暮してゐるのがいやで、自分で好んで職業をもつた者ですが、私達の仲間で、既婚の婦人は氣の毒で目もあてられんやうな氣がします。理由は、家で働いて、務め先で働いて、しかも、夫にも氣兼をし、雇主の前でもおど〱として、びく〱もので忙しくくる〱舞をしてゐるからです。

◇ 成田柳子

職業婦人が結婚して主婦となりますと、とかく職に在るは、夫の人格を恥しめるやうに考へ、心にもなく職を去る方が多いやうに思ひますが、夫の了解を得て働き、生計の上により以上の餘裕を作る事は、心丈夫であり、しかして貯へた貴きお金子を後日、子女の敎育費にあてる事が出來ましたならば、一層意義あるものともなりませう。幸、不幸はその家庭の事情に依つてきめられる様に存じます。

◇ 伊吹貞子

問題が如何にも漠然としてゐます上に、自分の頭もまとまつてゐませんが、現代においては、やつぱり結婚後婦人が職業に就いてゐるのは不幸だと思ひます。少く共幸福ではないでせう。何故ならば、今の社會は家庭の人としての婦人にのみ、用意する處があつて、職業婦人といふものに對して何一つの用意もしておりませんから。

◇ 石田幸子

既婚婦人にして、やがては人の親たらんは必定とせば、その任重大なり。即ち分娩より養育、教育、と母親としての務めは双肩にかゝれるなり。然るに身所謂時間制度精神的勞働に携はるに際し、日曜を除くの外、愛兒を見守る寸暇もなく、良人はじめ家族全てに充分の諒解あるにもせよ、よほどの精力家ならねば妻として母として、内外共にケッカンなき勤務振りはつくす能はざるはもちろんにして、殊に健かならざる折など、我知らずしみ〱と有職の身をなげく事多し。殊に乳兒に對し尊き惠みの授乳すら思ふまゝにならず、牛乳に代え、たま〱乳兒をして不消化に泣かしめ、如何にも慰し難き不幸を招くなど、有職婦人にして悲痛の深刻を味ふもの、その例少きに非ず。結婚後不幸にして良人に早逝され、妻としての務めなく、遺子の敎育專一に、實社會に活動しうる婦人こそ、眞に職業婦人として向上し得べし。

◇ 伊藤けさよ

結婚すれば子供のある事はもちろん前以つて覺悟せねばならぬと思ひます。そして子供を育ることは婦人のたゞ一つの使命であると思ひます。故に家庭を整理する上に不足を感じない程度においては結婚後も引き續き職業に就いてゐられる事は幸福かと思ひます。しかし職業柄、特に私の如き製糸業などの様に時間の長いものにあつては家庭整理の務めと兼ねることは、可なりのお方でも無理が出來ると思ひます。

しかしまた一方から考へると、婦人が精神的、社會的な仕事に携つてこそ、その子供を善良なる市民(所謂つかひ者)に育て得るものであると思はれますから、子供や家庭をまかすことの出來る老母でもある場合には、職業を續けることは幸福であると思ひます。

今年上半期の職業婦人界日誌

▲産婆を『産師』と改名（一月六日）
市外大井町南濱川一八三九河合病院長河合峻作氏は、産婆を昔からの言ひきたりで『とり上げ婆』などゝ言つて下品な商賣のやうに賤しむ者を直す爲に、『産師』と云ふ新らしい呼名をつけ、産師自ら協同して産院を建てゝ働らくやうな事業を計畫しつゝあることを發表した。

▲女給志願が激増（一月十日）　神田橋の市の中央職業紹介所の新春の幕開きに殺到した婦人の求職者の中に、カフエーの女給、茶屋待合の女中等の給料が多くて派手好みの志願者が著しく殖えて來た。これも不景氣の露骨に現はれた世相の一面か。

▲『專檢』受驗者は職業婦人（一月十一日）女子專門學校資格檢定試驗の應募者は著しく殖えて、この二三年間に約五倍に達した。即ち一昨年までは二十人足らずであつたものが、今年は百〇二人を數へた。これは職業婦人の向上を語るもので、百〇二人の中二十名の家事手傳ひと云ふ者を除くとことごとく職業婦人である。中でも一番多かつたのは産婆看護婦だ。これは女醫を志す苦學の有職婦人である。その次が教員保姆交換手タイピスト調劑師等で、中に女工一名と云ふのは珍らしかつた三十五歲が年嵩で廿一歲が年少だつた

▲新職業『セールスガール』（一月十三日）今度帝國ホテルの地下室に觀工場が出來たので、その店員に英語の話せる女子が給五十圓で採用された。但し勤務時間は午前十時から夜の九時頃までだ採用された松井みね子さん鳥取靜子さん鷲津あき子さんの三名は何れも丸の内外語協會學校の出身である。

▲藤田農場爭議の女房大會（一月二十三日）　岡山縣藤田農場の爭議が、動もすれば小作人の男達の腰の弱い爲に結束が崩れかゝるのを見た女房連八十餘名は憤慨して女房大會を開き、難波小波、田中こみ、山田あひ、大友うめ、松野いく、大井まさ氏等十名は大阪の藤田男爵邸へ直接談判に出かけた。

▲山憲の妹産婆となつて贖罪（一月二十五日）死刑場の露と消えた山田憲氏の妹むつ子さんは、兄の贖罪の爲産婆學を勉强して免狀を得、今では郷里新潟縣北蒲原郡中條で女神のやうに他人に慕はれて獻身的に働らいてゐるさうだ。

▲婦人ホームの夜學部（二月五日）　府下大久保三五六の基督教矯風會の婦人ホームでは、附近の女中の爲夜學部を新設して修身裁縫習字珠算等の學科を授け始めた。

▲『專檢』合格者二十五名（二月六日）
女子專門學校資格檢定試驗合格者は百

○二名の中二十五名であつた。

▲職業と結婚の調和問題（二月六日）英國の小説家エ・エスエム、ハチソン氏の『婦人が外に働らく事と子供を育てて家庭を管理することは兩立しない』と云ふ事柄を題材にした小説『この自由』が、英米婦人の間に問題になつてゐることが傳へられて來た。

▲女子勞學院の設立（二月六日）熱心なる夜間中學の主唱者穂積重遠博士有馬頼寧氏等の後援で芝公園區内に新設された勞學院では、優良なる高等女學校卒業生十名を選拔して毎月三十圓宛給與、各種女子專門學校大學等に入學せしめてその卒業生を中心にして女子勞學院を設立する事に決定した。尚女子勞學生の大同盟を作る計畫だと云ふ

▲實業の婦人社創立（二月八日）元職業婦人で婦人經濟研究會を組織した事のある林琴子女史は、今度、府下入新井宿に事務所を置いて實業の婦人社を創立した。この會は婦人の經濟的自覺を呼び起さうとするのが目的で、私設市場の新設や職業婦人の相談部機關雜誌の發刊等が主なる事業だ。『實業の婦人』第一號發刊を待つて八日夜帝國ホテルで披露會を開いた。

▲新舊女髪結の爭ひ（二月十日）七三耳隱髪の流行に逆れて日本髪專門の女髪結の商賣がさびしくなるので、東京婦人結髪同業組合では本部を下谷池端六軒町三九の田淵頴吉氏方に置き、帝國美髪研究所長佐藤あき子さんを會長に仰いで都下の髪結二千七百名が團結して束髪に對抗して日本髪の宣傳をするさうだ。尚同會は新に機關雜誌『女性美』を發刊する。

▲女流飛行家現はる（二月十八日）兵頭精子女史が飛行界を去つた後へ今度遠州の掛塚の福長飛行場から雲井龍子（二五）さんと云ふ女飛行家が現はれたやがて三等操縦士の試驗を受けるさうだ。

▲女教員の萬引問題（三月三日）大正十一年に白木、三越、髙島屋等の呉服店で萬引を働らいた女教員が三百六十八名あつたと云ふ誤報を萬朝紙が報道したので問題になり、女教員は結束して警視廳をなぢり、市内全部の父兄にこの誤報なることを告げ、女教員大會を開いて輿論に訴ふる所があつた。

▲實業練習生募集（三月十日）農商務省の實業練習生は今年度においては三十名前後を募る。志願者は八月二十五日までに出願することを發表した。

▲農會議員に女教員（三月二十一日）農會法の改正で一反歩以上の小作者はその男女を問はず選擧權を得る事になつたが今回の選擧により香川縣大川郡小田村の小學校女訓導藤目はる子女史（四一）は最高點で當選した。これが日本で最初の婦人農會議員である。

▲職業婦人懇談會（三月二十五日）外語協會學校の肝入りで帝國ホテルに開かれた職業婦人懇談會の結果は、レボルト商會のタイピスト大竹靜子鈴木余志兩孃及び新妻伊都子氏を中心として相互職業婦人組合と命名し、芝區松本町四四新妻方に事務所をおきて職業婦人問題を研究するといふ。（つづく）

紙鐵砲



□**私は恥ぢる**　私は今になつて始めて眞實の恥といふものを知りました。それはどんなことだと思ひます。皆さん。私は人の妻です。妻であることを幸福に思つてゐた無邪氣なノラにすぎませんでした。私は貧乏な家に生れて、軍人の妻になつたことを出世だとおもひました。今になつて氣がついてみると、良人はあくまでも勞働者を苦しめるところの國家の味方となつて、人を殺すことを光榮としてゐる人間ではありませんか。まして良人は、自分の部下に強ひる屈從を自分の妻にも強ひて來た人間です。私は眞理に眼ざめました。軍人の妻であることを、光榮と思つてゐた自分を恥ぢます。あゝしかし、私が良人から今はなれることは、生活を失ふことです。よろしい。私は職業婦人となりませう。どんな勞働でもしませう。働かないで食ふのは間違つてゐますから。しかし、私をかりに使つてくれるところがあつてもそれが矢張り、私たちによつて利益をむさぼらうとする資本家であるとしたらどうしませう。が夫に從つてゐるよりは職業婦人といふ皆さんの仲間に入ることは、力強いと思はないではゐられません。それは資本家と云ふ敵がまた出來ても、職業婦人の方は、皆さんと云ふ仲間がゐるから、一人で戰ふより大ぜいで戰つた方が強くなれると思ひます。皆さんきつと〳〵私を仲間に入れて下さい。（ちよ子）

□**名流婦人の株式會社**　丸の内ビルディングの一階に、リリスとやら云ふ華やかな化粧品を賣る店が出來たさうな。經營者は皆お歴々の上流婦人で、まづ日本屈指の女流教育家と吾人（われひと）ともに許す女子醫專の吉岡彌生、山脇高女の山脇房子、女子商業の嘉悅孝子の三校長、入澤岡田の二醫學博士夫人に櫻田、齋藤の二女史と云ふ素ばらしい顔ぶれ。學校經營業でこつそりとためこんだ三校長に、お金を使ふのにあきたブルジョア婦人が協力して株式會社を買收し、その工場で作り出した商品を賣るのだそうである。資本金は三十五萬圓、株の大部分はこの七婦人が引うけたとある。日本一の丸の内ビルディング日本一の經營者、その上資本があつて金に困らぬお孃さん奥さんを相手の化粧品店、何から何まで結構なことばかり。この商賣のもをかること、ゆめ〳〵疑ひなし。株の配當は七割ぢやききますまいね。私も一枚買ひたいのだが。（京子）

□**何とかしたい**　生活の爲に、家庭のために、親のために、こんな稼業に身を落したと言ひながら、わたしだつて、職業婦人だと思ひます。讀者諸姉よ皆さんよりもつとひどい、もつとひどい、肉體をふみにじられてゐるわたしです。ブルジヨアつて言ひましたわね、金持のことを。そのブルジョアの玩具になるために、私は生きてゐなければいけません。私達が美しい着物を着てゐるからつて、憎んではいけません。ブルジョアが、こんな着物を着せて、白粉をつけさせて、自分た

ものなぐさみものにするのであります。私が、十四で處女を失つた時、どんな〳〵恐しい思ひをしたことでせう。私がどんなに〳〵此の生活から逃け出さうとしても、借金のためにしばられてゐます。此の世の中をどうにかしなければ、私たちは救はれません。きつとどうにかしなければなりません。(松枝)

□女學生の危險思想　某女學校生徒三〇三名に就ての思想の調査統計を文部省が發表してゐる。それによれば、自由結婚、婦人參政權、婦人解放、男女同權等の問題を善きことなりと認めた者が多數であつたことは大いに婦人のために氣を吐いてくれたわけであり、社會主義、共産主義をよいことなりと云つた者の方が多かつたと云ふことは更らに大いに頼しい次第。ところが惜しいことには、軍國主義はいけないと云ふと同時に過激主義も一三七と云ふ多數者の反對にあふと云ふ不徹底さ、勞働問題は結構と賛成するくせにストライキはいけないとこぞつて不賛成をとなへると云ふわけのわからなさ。文部當局はこの結果に對して「要するに彼の女等は何も本當にわかつては居ないのだ」と云つたさうだが、全く仰しやる通りですよ。けれども私は附つけ加へたいわ。「何もわかつてゐないのは女學生ばかりぢやない。世間で物知りらしい顔をしてゐる先生方やお役人の石頭の方がもつと困るつて。」この統計を發表した某新聞の標題に「女學生の思想に表はれた時代相」とあつた。無理解で不徹底で混沌としてゐてムジユンだらけな人達をこの女學生が代表してゐるわけなんですね。

(那都子)

□お母さんの心持ちで　時の流れ程恐ろしいものはない。澤山の婦人は今や家を出て仕事をすることを餘儀なくされてをる。その餘儀ない連中のたゞ一の機關である集りが無性に多い。いわく――いわく――とその多い集團をして一まとめにしやうと思ふ人達が生れて來た。それが職業婦人社である。それだけにビジネスガールの圏内でもつとも新らしい頭のお連中の集りとみてもよいでせう。私はそれを大變に結構なことゝ思つてゐる。然し今日の人達はとかく根がない煙の様に現れたかと思ふと消えるものがザラにある。内に潜む力がなく徒らに嫉みとひがみとが多いのもその原因の一つでせう。

そこで社の方はそんなお方もなくへまなこともやられまいが時勢に順應して生れたこの雜誌「職業婦人」を厄介視しないで各自がお母さんの心持ちで大切に育んで大きな立派なものになすつて下さい。

(U子)

新刊紹介

◇婦人問題十講　本間久雄著

婦人並びに男子の問題は今最も重大な最も興味ある思想問題の一つである。著者は、ケイ、エリス、ルカその他泰西諸名著の學説をも渉獵し左の十講に分けてある。

(1)婦人運動の由來と意義――(2)新性的道德――(3)自由離婚の是非――(4)結婚の進化――(5)戀愛觀の變遷――(6)近代の結婚改造案――(7)婦人職業問題――(8)婦人參政權運動――(9)新マルサス主義と產兒調節――(10)我國思想發達。(定價二圓八十錢)

婦人雜誌瞥見

小濱奈美子

單行本と云はず、雜誌と云はず、どれもこれも賣れるものは、ことごとくそろひもそろつて、性慾的なものばかりである。私達はこの現象を何と見たらいいのだらうか。そのまた廣告と來たら、それこそ大變なもので、珍無類な文句入りのテウハツ的な廣告である。そして、この廣告に釣られて買つて讀む人達は、ほとんど全部が、ブルジョア階級の青年男女であるといふ。それだからと云ふので、このブルジョア青年男女をエサにしやうと目論んだのか、六月の婦人雜誌は打ちそろつて、例の「淸田淸次郎對舟木芳江事件」に就ての感想を揭載してゐる。私達から見ればクダラないブルジョア階級の若い男女の戀の道行位なもので、問題にも何にもなりさうもなく思はれるのに、それも、さもさも一大事件のやうに騷ぎ立てた新聞も新聞なら、雜誌も雜誌である。甘い低級な小說を書いて、世間見ずの、それこそ芋の煮えたのも知らないでゐる青年男女達に、少しばかり評判になつて逆上せきつた男と行詰りの露地にでも追ひこまれて、動きのとれなくなつた時代遲れの閨閥ブルジョアの家庭に育つた、我儘娘との單なる痴情の經緯ではないか。それを何故かうまで騷ぎ立てて問題にしやうとする雜誌の編輯者も編輯者なら、それに對して眞面目になつて、ああだかうだと述べ立ててゐる、所謂世間の名士達も名士達だと思ふ。少しはウソにでも「名士」と云ふ辭に恥ぢて、自分達の馬鹿らしさを反省なさい、と申したくなる。

然し考へなほして見れば、どうせ現代の婦人雜誌と云ふものが、ことごとくブルジョア階級の娛樂雜誌にすぎないのだから、やはり讀者を歡ばせて、一册でも多く雜誌を賣らうとするには、こんなブルジョア相當の興味で大切な紙面を埋めなければならぬのも、資本主義制度の社會に生れ合せたお蔭なのだらうと、有難いやうな情けないやうな氣持もするところで、いくら有難いやうな情けないやうな氣持でゐやうと思つても、やはりそこは感情の動物とやらで、まづ手當り次第に取り上げた雜誌が、餘りにもブルジョアの金權讚美と性的

生活讃美の畫と文句とに、隅から隅まで埋められてゐるので腹の虫がむづむづすると云ふ次第である。

『婦人世界』といふ雜誌は、流石は増田義一氏といふブルジョア代議士の經營してゐられる、實業の日本社發行とあつて現代ブルジョア階級の不良奥樣や不良孃樣達のお相手するには、何よりも適當に製造されてゐる。まづ「美しく咲ける毒草の誘惑」といふ標題を掲げて「恐る可き性病の悲劇」だとか「我子の性敎育」云々だとかの題目で、所謂世上の名士四十餘人の談話を載せてゐる。無論、島田對舟木家の問題も、如才なく特別扱ひで掲載されて、舟木重雄氏島田清次郎氏二人の話が出てゐる。その他にこの雜誌の最初からの主眼でもあつた「實用向」といふことが、現在でもやはりかなり色濃く紙面に現れてはゐるが、その「實用向」といふのも、やはり増田式で何處までも、ブルジョア階級、山ノ手の何々婦人界の奥樣方の家庭の「實用向」であつても、私達プロレタリアの家庭の「實用向」でないことは事實である。下田歌子先生御經營の實践女學校あたりの、いい相棒になりさうな「實用向」である。この「實用向」と淺薄な性慾的な「敎訓談」とやらが——たとへば「我子の性敎育を如何にすべきか」と云ふやうな——現代ブルジョア智識階級の内面生活の何よりの象徴である。晝間は何々婦人會主催の、婦人世界新案「草の葉染め」講習會にでも御通ひ遊ばされて、夜は知識階級婦人の權威を高める爲めに舞踏のお稽古に憂身をやつしなさいである。それには丁度、婦人世界といふ雜誌が日本帝國で發行されてゐる。婦人世界の口繪には、倍大二頁の「初夏にふさはしい流行の洋裝」とその「衣裝に似合ふ新型の東京髮」とかの結方の畫が附いてゐる。プロレタリアの私達には三文の價値もなくとも、婦人世界の愛讀者方には、必要かく可らざるものであることは、私が堅く保證してもよい。次に「趣味の婦人」と云ふ雜誌、これはクリスチャンの松本雲舟氏が編輯とやらで、流石に「婦人世界」のやうに、ブルジョア婦人達の爲めに、低級な野太鼓をたたいてゐるやうな所は見えない。然し大勢には抗す可らずと見てか、やはり「處女の性的成長と情敎育」といふ題で、一寸讀者を釣つてゐる。島田氏對舟木芳江氏の問題にしても、單に興味的なものとせずにある種の批判がその背後に光つてる。署名はないが、松本氏の執筆ではなからうかと思はせる。それにこの雜誌は讀者からして「趣味の婦人」と銘打つてゐるだけに、何處となく全體に文學的な色彩がある。然し何としても、現代の社會組織の下で、婦人雜誌を出して損をしまい、もうけやうと云ふのだから、やはりブルジョア婦人の爲めの讀みものであることはもちろんでたゞ婦人世界から較べると所謂「實用向」が薄く、露骨な性的敎訓が少なくなつてゐる、それだけブルジョア御婦人達から受けのよくないことは事實で、その結果雜誌

の賣高は婦人世界とは、到底競爭にはならないだらうと私は心配してゐる。この雜誌は卷末に「現代婦人錄」といふのを連載してゐる。これは近頃の文章俱樂部式の遣方で、讀者を惹かうと云ふのだらうが、文章俱樂部が文學青年を釣つたものと同時に、現代虛榮婦人連が巧くこれで引懸るかどうか。しかも、これらの「現代婦人錄」的女性の寫眞を、堂々と卷頭に掲載紹介してゐる所は、一寸、講談雜誌の卷頭の藝妓の寫眞紹介と似通つてゐるやうな氣がしないでもない。雲舟氏のお考えはどんなものだらうか。

「婦人公論」は、流石に現代婦人雜誌中の一權威を以て自任してゐるだけに、多くの雜誌中でも立優つて見える。執筆者も田中王堂、佐野學、長谷川如是閑、北昤吉などといふ知名の士の他に、文壇からも有島武郎、正宗白鳥、中村吉藏、上司小劍、武者小路實篤などの顏觸れで、文藝欄といふものも別に設けて、秋田雨雀、佐藤春夫、細田源吉、細田民樹などの名を連ねてゐる。そして、流石にチヨウハツ的な性的記錄は陰を潛めて、佐野學氏の「未來の社會における婦人」とか田中王堂氏の「若き女性の爲めに覺ざめの意義を講ず」とか云ふ論文が、卷頭を飾つてゐる。時評は長谷川如是閑氏が執筆してゐる。島田氏事件にしても、もつとこれを廣い社會上の問題として取扱つてゐる態度も、他の雜誌とは違つてゐる。背景に中央公論社があり、編輯者が島中雄三氏の舍弟の雄作氏だと聞くが、さう云ふ關係からでもあらう。ともかくも同じくブルジョア婦人雜誌にしても、自由思想家的な言說の多くが掲載されてゐる。それにしても、もうそろそろ純眞なプロレタリア婦人雜誌が生れて、これらのブルジョア婦人雜誌に挑戰してもいい頃ではなからうか。どの婦人雜誌も、何時までもブルジョア階級の娛樂物であつてよいと云ふ理由はなささうに思へる。

他にまだ女性日本人、女性改造、女性などと云ふ日本有數の大ブルジョワ雜誌もあるけれど、何册ならべても同じやうな氣がするからこの邊でよすことにする。

職業婦人社第一回研究會

去る五月卅日、午後七時から、牛込神樂坂俱樂部で雜誌「職業婦人」を中心として集る人々の第一回の研究會が催された。當日の婦人來會者は二十餘名、講師は歸朝早々の黑田禮二氏演題は「ロシア婦人の二つのタイプ」と云ふのであつた。直接ロシアを觀てきた人の話をきく機會を持たなかつた私どもにとつては、此のお話は殊に興味深いものであつた。尙今後もかういふ地味な集りを催して、互ひに研究してゆきたいと思ふ。（附記）この研究會へ出席御希望の方は、職業婦人社へ御申込み下さい。研究會の折に御通知いたします。會費はいりません。職業婦人諸姉の御來會を歡迎いたします。

世界の婦人

□**婦人學校の昇格運動**　女子高等師範學校では、同校を師範大學に昇格せしめるべく運動を開始することに決定した。女子英學熟でも單科大學昇格の計畫中だと云ふ。これから婦人學校にも昇格運動の流行を見るだらう。

□**婦人會館設立の計畫**　婦人市政研究會の人々は今秋皇太子殿下御慶事記念のため、五十萬圓の豫算で婦人會館設立の計畫をしてゐると云ふ。日本にはかういふ機會がなくては出來さうもない結構な事

□**女子教育振興委員會**　六月十八日帝國教育會内の同會は第二回委員會を開催し

一、女子に專門學校を開放すること

二、高等女學校を中學校と同一程度にすること等が議せられた。

同會のお骨折で美術學校や外國語學校が婦人に開放される日も遠くあるまい。

私達職業婦人には緣の遠いお話だが――

□**日露婦人交驩會**　在京中のヨッフエ夫人を主賓として日露婦人親善を目的とする日露婦人交歡會は七月二日築地精養軒において開かれる由。この催しが單なる儀禮のみに止らず眞に國際的外交に資する何ものかをもたらすことを切に望む。

□**ゼーンアダムス女史來る**　社會事業家として平和の宣傳者として世界的に有名なアダムス女史は去十八日來朝、目下神戸に滯在、上京は七月中旬で二週間位ひ滯在の豫定であると。同女史はシカゴのハルハウスの創立者で、社會事業家の祖先といつてもいゝ位ひ、またゼネバにおける婦人平和會の會長として平和の宣傳に全力を注いでゐる。

□**朝鮮婦人と女中**　目下大阪には朝鮮婦人の失業者が二千人に近いとのこと、その多くは宿泊所がなく、二百に近い鮮人宿泊所があるが、男子失業者がゴロゴロしてゐるので、良い結果を生まないさうである。ところで、女中拂底のためそれらの婦人はその方面に紹介されてゐるが、中々評判がよいとのことである。朝鮮婦人は概して温順だから、その家庭の主婦が十分な理解を持つなら雙方好都合のことが多からうとのことである。

□**婦人の宣傳隊**　京城東亞日報五月廿八日の記事に依れば、シベリア在住の朝鮮人の大部分は共産主義の共鳴者だそうである。彼等は朝鮮内地をも赤化させんがために大ひに活動しつゝあるが、最近には婦人宣傳隊として朴英福、金仁福、兪吳月、雀玉仁等の花の樣な美人等が國境を越えて京城にはいつたと云ふ。彼の女等はひそかに主義の宣傳につとめてゐるそうだ。

□**高麗婦人革命會**　京城東亞日報六月八日の記事によれば、海參威における朝鮮婦人を以つて組織せられてある高麗婦人團體聯合會は五月上旬、共產黨靑年會館において開催せられた。會議の結果高麗女子革命會を組織することに決定し、委員、宣傳部長庶務課長書記等の選擧を行ひ實際運動に着手準備中であると。

□**京城女子共產局**　最近、京城において有志婦人の手により昨今の不景氣のため生活難のドン底におとし入れられた無產婦人を救濟する目的で、京城女子共濟會なるものが設立せられた。こゝでは全く無學な婦人等を集めて、ミシン、裁縫等の技術を敎授し、良好な結果を得てゐる

□**獨逸婦人の苦境**　戰後の生活難と女子過剩とは、獨逸婦人を著しい苦境におとしいれてゐる。賣笑婦、墮胎犯人等は近來ふえる一方だと云ふ。日本などこれに比べたら極樂だと云はれて居る。しかし賣笑婦も居ないし墮胎等の必要の全然ないロシアを思ふ時は、日本婦人とても考へないではおられぬ。

前號目次

編輯室綴り

□創刊號は、思ひがけない處に、熱心な讀者を見出して、豫想外の反響を得ました。毎日のやうに、舞ひ込んでくる先輩や同志からの數々の褒詞忠言に力づけられて、七月號は、より以上の希望と抱負の下に、はじきれさうな内容を以つて、增刷する事が出來ました。うれしく感謝いたします。

□發行日までには出したいと思つて隨分苦心しましたが、今月もまた遲れてしまひました。今月は『職業婦人問題講演會』を青年會館に催したので、やきもきしながらもその方の爲めにかけ廻はらねばなりませんでした。人手が不足だつたとはいへ責は編者にあるのです。充分御わびいたします。

□みなさんからの御寄稿は、なんに限らず歡迎いたします。殊に社會生活經濟生活の上の事實の報導や、これに對する說明なり、感想なり、また虐げられた人々の衷心からの感情や叫び等は、一層歡迎いたします。どうかみなさん揮つて御寄稿下さい。

□今月は寄稿や投書して下すつた方が多くて殘念ながら全部を載せる事が出來ないで來月號にまはしてしまひました。そのうちで、布施辰治氏の「無産婦人と職業生活」村田純子氏の「婦人職業問題について」武田ちえ子氏の「婦人の地位、生活金」、北えつ子氏の「女工の叫び」等は、最もいゝものであります。どうかみなさん今から來月號を待つてゝ下さい。（初）

定價

一部	金二十錢	郵税五厘
半ヶ年	金一圓二十錢	不要
一ヶ年	金二圓四十錢	不要

廣告料

特等	一頁	四十圓
一等	一頁	三十圓
二等	一頁	二十圓
	半頁	十圓

四回以上割引あり

△御注文は總て前金で願ひます。
△御送金は振替に御拂込み下さい。
△郵券代用の際は一割增の事（五厘切手にて）
△誌代の領收書は別に差上げません雜誌發送を以つてこれにかへます。

大正十二年六月卅日納本
大正十二年七月一日發行　（第二號）

編輯發行人　東京市神田區表神保町十　矢部初子
印刷人
印刷所　東京市牛込區余丁町三十一番地　文化印刷所
　東京市神田區表神保町十
發行所　職業婦人社
電話長神田三四七三番
振替東京六四一六〇番

大鐙閣の社會書

東京神田今川小路
大阪市三休橋南詰　大鐙閣發行　振替 東京三三六一八 / 大阪二七一五五

- 石川三四郎著　**西洋社會運動史**　定價四圓五十錢　送料十八錢
- 遠藤友四郎著　**アナーキスト列傳**　定價三圓二十錢　送料十二錢
- 文學博士 三浦周行著　**國史上の社會問題**　定價三圓七十錢　送料十二錢
- ラファルグ著 千葉雄次郎譯　**社會主義社會觀**　定價二圓三十錢　送料十二錢
- ゴルテル著 堺利彥譯　**唯物史觀解說**　定價一圓二十錢　送料十二錢
- クロポトキン著 遠藤友四郎譯　**近世科學と無政府主義**　定價一圓二十錢　送料十二錢
- アルナウド著 鳳間徹二譯　**ニヒリズム研究**　定價一圓三十錢　送料十二錢
- エンゲルス著 堺利彥譯　**空想的及科學的社會主義**　定價一圓　送料十二錢



品質日本一
ヤマサ醤油
ヤマサ醤油
最上醤油
YAMASA SHOYU
宮内省御用達
上
千葉縣銚子町
濱口儀兵衛釀
どなたも喜ぶ！
美味しいことは
誰方をも喜ばせます。
料理の秘訣は
お味のつけ方！
良いお醤油の御使用が
一番肝要であります。
▲一升壜詰
御贈答用として
少人數の御家庭用として
至極御便利。
▲最寄の醤油店へ
「ヤマサ醤油」と御用命願ひます。

